

自己点検・評価報告書

－ 2019年度－

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部

『2019 年度 自己点検・評価報告書』 作成にあたって

文化学園大学及び文化学園大学短期大学部では、教育の内部質保証を目的として、2006 年度から、毎年、全学的な自己点検・評価活動を実施しています。この活動は、将来構想委員会による自己点検・評価の基本方針のもとに、全学自己点検・評価委員会において自己点検・評価報告書を作成することにより実施してまいりました。報告書には、本学の教育研究等にかかわる自己点検・評価検討機関ごとに、「本年度の課題」「取り組みの結果と点検・評価」「次年度への課題」についての記載のほか、エビデンスとして「会議等の開催記録」が掲載されています。2019 年度は、学内の 43 検討機関、学園本部の 4 検討機関における結果をとりまとめました。記載文中の【大】は大学独自の事項、【短】は短期大学部独自の事項、【共】は大学と短期大学部に共通する事項を示しています。

報告書の執筆に際しての評価基準は、公益財団法人日本高等教育評価機構による評価基準を基本としています（以下の基準 1～6）。このほか、本学が個性・特色として重視している独自基準としては、「特色ある教育研究と社会貢献」と「国際交流」があります（以下の基準 A, B）。本報告書では、47 検討機関が上記の基準に沿って自己点検・評価した結果がまとめられています（巻頭に検討機関と基準及び基準項目との対応表を掲載）。

- 基準 1. 使命・目的等（使命・目的、教育目的）
- 基準 2. 学生（学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応）
- 基準 3. 教育課程（卒業認定、教育課程、学修成果）
- 基準 4. 教員・職員（教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援）
- 基準 5. 経営・管理と財務（経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計）
- 基準 6. 内部質保証（組織体制、自己点検・評価、PDCA サイクル）
- 基準 A. 特色ある教育研究と社会貢献
- 基準 B. 国際交流

大学教育の内部質保障は、各検討組織における課題及び結果の記述に留まることなく、結果に対する客観的な点検・評価及び改善の方針が明確化され、PDCA サイクルが有効に機能することにより、はじめて継続的なものとなります。本報告書を、学内の各組織における改善の指針として有効に活用していただけたら幸いです。全学自己点検・評価委員会では、本学の教育の内部質保障を推進するために、今後とも継続して全学的かつ自律的な自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。つきましては、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

2020 年 10 月 1 日
全学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成 13 年度 (2001)』
2. 『文化女子大学 自己評価報告書 平成 17 年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 18 年度ー』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 19 年度ー』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 20 年度ー』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 21 年度ー』
7. 『文化女子大学短期大学部 自己評価報告書 平成 22 年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 22 年度ー』
9. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 23 年度ー』
10. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成 24 年度』
11. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 24 年度ー』
12. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 25 年度ー』
13. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 26 年度ー』
14. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 27 年度ー』
15. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 28 年度ー』
16. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成 29 年度』
17. 『文化学園大学短期大学部 自己点検評価書 平成 29 年度』
18. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成 29 年度ー』
19. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー2018 年度ー』

文化学園大学

自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応

※  は対応していることを示

検討機関名			基準1		基準2						基準3			基準4				基準5					基準6			基準A			基準B	
			使命・目的等		学生						教育課程			教員・職員				経営・管理と財務					内部質保証			特色ある教育・研究と社会貢献			国際交流	
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	6-1	6-2	6-3	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2
			使命・目的及び教育目的の設定	使命・目的及び教育目的の反映	学生の受入れ	学修支援	キャリア支援	学生サービス	学修環境の整備	学生の意見・要望への対応	単位認定、卒業認定、修了認定	教育課程及び教授方法	学修成果の点検・評価	教学マネジメントの機能性	教員の配置・職能開発等	職員の研修	研究支援	経営の規律と誠実性	理事会の機能	管理運営の円滑化の相互チェック	財政基盤と収支	会計	内部質保証の組織体制	内部質保証のための自己点検・評価	内部質保証の機能性	大学が持っている物的資源の活用と社会への提供	大学が持っている人的資源の活用と社会への提供	教育研究活動を通じた社会貢献	留学生教育	国際交流センターを中心とした取組み
大学運営会議（将来構想委員会）																														
全学自己点検・評価委員会																														
全学FD委員会																														
審議機関	学部	教授会																												
		服装学部教授会																												
		造形学部教授会																												
		現代文化学部教授会																												
	大学院	生活環境学研究科委員会																												
国際文化研究科委員会																														
協議会	服装学部協議会																													
	造形学部協議会																													
	学部共通科目協議会																													
	現代文化学部協議会																													
委員会	常置	教務委員会																												
		学生支援委員会																												
		入試対策委員会																												
		就職委員会																												
	特別	研究委員会																												
		研究倫理委員会																												
		研究公正委員会																												
		研究活動不正防止委員会																												
		公開講座実行委員会																												
		ハラスメント防止委員会																												
		障害学生支援委員会																												
	学部専門	衣料管理士課程専門委員会																												
		建築・インテリア系資格専門委員会																												
		文化・語学研修専門委員会																												
		日本語教員養成課程専門委員会																												
	課程専門	教職課程専門委員会																												
		学芸員課程専門委員会																												
		司書課程専門委員会																												
	国際交流委員会																													
附属機関	文化学園大学図書館																													
	文化学園服飾博物館																													
	文化学園ファッションリソースセンター																													
	文化学園国際交流センター																													
	文化学園知財センター																													
	USR推進室																													

文化学園大学

委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

検 討 機 関 名		担当領域	内容	対応基準
協議・審議機関	文化学園大学 将来構想委員会	将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、本学の現状について 本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
	全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
	全学FD委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発 を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する 事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事 項、学生による授業評価の実施、結果分析及び フィードバックに関する事項、その他ファカル ティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
常置委員会	教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に 関する事項並びにその他教務に関する 事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する 事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事 項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関 する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に 関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他 教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関す る事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2. B-2
	学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事 項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人 留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーション の推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会 所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6. B-1
	入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関 する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
	就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推 進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及 び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関す る事項、学生支援・面接に関する事項、インターン シップに関する事項	2-3
特別委員会	研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研 究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研 究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の 共同研究に関する事項、学内外の研究交流に関 する事項、研究成果の発表に関する事項、紀要の編 集刊行に関する事項	4-2. 4-4. A-1. A-3
	研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究 のうち、倫理上の問題が生じる恐れ のある研究を行う場合の留意事項及び手 続き等を定め、研究対象者及びその関 係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の 倫理に関する事項	4-4. A-1
	研究公正委員会	研究費の不正使用の防止を図る	本学における研究活動の不正行為に対処	4-2. 4-4
	研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及 び不正行為に起因する問題が生じた場 合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正使用 帽子計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、 必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
	公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に 開放し、一般市民の教養の増進と専門 知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	4-2
	ハラスメント防止委員会	ハラスメントに関する防止、調査及び 救済を統括する	ハラスメント防止の啓蒙活動、ハラスメントの実態 の把握、ハラスメント事案について当事者及び関係 者から事情を聴取、その他ハラスメント防止に関す る必要な事項	2-4. 2-6. 5-1
	障害学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不 利益な扱いを受けず、適切な支援を受 けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあたっての指 導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額 学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関 する指導・助言	2-4. 2-5. 2-6
学部専門委員会	衣料管理士課程専門委員会	衣料管理士免許状の取得に関する事項	衣料管理士専門課程に関するカリキュラムの編成、 科目の履修方法、テキストアドバイザー実習関 係等、衣料管理士資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	建築・インテリア系 資格専門委員会	建築インテリア系資格の取得達成に寄 与する	建築・インテリア系受験資格に関するカリキュラム の編成、科目の履修方法、建築・インテリア系受験 資格の認定に関する事項、資格取得の支援方法に関 する事項	3-1. 3-2. 3-3
	文化・語学研修専門委員会	文化・語学研修に関する事項	文化・語学研修の教育方法に関する事項、文化・語 学研修の学生指導に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	日本語教員養成課程 専門委員会	日本語教員養成課程修了資格の取得達 成に寄与する	資格課程の全体計画、カリキュラムの編成その、履 修方法など、修了資格の取得達成に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
課程専門委員会	教職課程専門委員会	教育免許状の取得達成に寄与する	教育課程の全体計画、カリキュラムの編成、その履 修方法並びに教育実習の年間計画等を策定し、かつ 各部会の連絡調整	3-1. 3-2. 3-3
	学芸員課程専門委員会	学芸員資格の取得達成に寄与する	学芸員課程に関するカリキュラムの編成、科目の履 修方法等、学芸員資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	司書課程専門委員会	図書館司書資格の取得達成に寄与する	司書課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修 方法等、司書資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
国際交流委員会		学生の海外留学及び国外大学との連携 について審議・検討	学生の国外留学、国外大学との単位互換及び国外大 学の学生の研修受入れに関する事項	B-1. B-2

文化学園大学短期大学部

自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応

※  は対応していることを示す

検討機関名			基準1	基準2						基準3			基準4				基準5					基準6			基準A	基準B							
			使命・目的等	学生						教育課程			教員・職員				経営・管理と財務					内部質保証			特色ある教育	学外への学修成果の発信							
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	6-1	6-2	6-3	A-1	A-2	B-1	B-2				
			使命・目的及び教育目的の設定	使命・目的及び教育目的の反映						単位認定、卒業認定、修了認定			学修成果の点検・評価				管理運営の円滑化の相互チェック					内部質保証のための自己点検・評価			内部質保証の機能性			本学が持つ人的・物的資源を生かした教育への取り組み		特色ある教育における学外への学修成果の発信		教育活動の学外への学修成果の発信	
大学運営会議（将来構想委員会）																																	
全学自己点検・評価委員会																																	
全学FD委員会																																	
審議機関		教授会																															
協議機関		短期大学部協議会																															
委員会	常置	教務委員会																															
		学生支援委員会																															
		入試対策委員会																															
		就職委員会																															
	特別	研究委員会																															
		研究倫理委員会																															
		研究公正委員会																															
		研究活動不正防止委員会																															
		公開講座実行委員会																															
		ハラスメント防止委員会																															
附属機関	障害学生支援委員会																																
	文化学園大学図書館																																
	文化学園服飾博物館																																
	文化学園ファッションリソースセンター																																
	文化学園国際交流センター																																
	文化学園知財センター																																
共同研究拠点	USR推進室																																
	文化ファッション研究機構																																
	文化・衣環境学研究所																																
	文化・住環境学研究所																																
	和装文化研究所																																
附属研究所	文化・ファッションテキスタイル研究所																																
	教務部	教務課																															
	学生部	学事課																															
		学生課																															
	事務局	入試広報課																															
研究協力室																																	
全学SD委員会																																	
学園就職支援室		就職支援一課																															
文化学園学生支援センター																																	
学園本部	総務部																																
	施設部																																
	経理部																																
IT委員会																																	

文化学園大学短期大学部

委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

検討機関名		担当領域	内容	対応基準
協議・審議機関	文化学園大学 将来構想委員会	将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、本学の現状について 本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
	全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
	全学F D委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発 を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する 事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事 項、学生による授業評価の実施、結果分析及び フィードバックに関する事項、その他ファカル ティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
常置委員会	教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に 関する事項並びにその他教務に関する 事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する 事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事 項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関 する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に 関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他 教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関す る事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2. A-1
	学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事 項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人 留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーション の推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会 所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6
	入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関 する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
	就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推 進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及 び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関す る事項、学生支援・面接に関する事項、インターン シップに関する事項	2-3
特別委員会	研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研 究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研 究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の 共同研究に関する事項、学内外の研究機関との交流に 関する事項、研究成果の発表に関する事項、紀要の編 集刊行に関する事項	4-2. 4-4
	研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究 のうち、倫理上の問題が生じる恐れ のある研究を行う場合の留意事項及び手 続き等を定め、研究対象者及びその関 係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の 倫理に関する事項	4-4
	研究公正委員会	研究費の不正使用の防止を図る	本学における研究活動の不正行為に対処	4-2. 4-4
	研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及 び不正行為に起因する問題が生じた場 合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正使用 帽子計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、 必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
	公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に 開放し、一般市民の教養の増進と専門 知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	4-2
	ハラスメント防止委員会	ハラスメントに関する防止、調査及び 救済を統括する	ハラスメント防止の啓蒙活動、ハラスメントの実態 の把握、ハラスメント事案について当事者及び関係 者から事情を聴取、その他ハラスメント防止に関す る必要な事項	2-4. 2-6. 5-1
	障害学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不 利益な扱いを受けず、適切な支援を受 けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあたっての指 導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額 学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関 する指導・助言	2-4. 2-6
国際交流委員会		学生の海外留学及び国外大学との連携 について審議・検討	学生の国外留学、国外大学との単位互換及び国外大 学の学生の研修受入れに関する事項	2-4. 2-5. 2-6

目 次

『2019 年度自己点検・評価報告書』作成にあたって	2
文化学園大学 自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応	4
委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	5
文化学園大学短期大学部 自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応	6
委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	7
協議・審議機関	
大学運営会議・将来構想委員会	12
全学自己点検・評価委員会	14
全学 FD 委員会	16
協議機関	
服装学部協議会	20
造形学部協議会	22
学部共通科目協議会	24
現代文化学部協議会	26
短期大学部協議会	28
審議機関	
大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	32
国際文化研究科委員会	34
教授会	
文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録	36
文化学園大学短期大学部教授会開催記録	37
常置委員会	
教務委員会	38
学生支援委員会	40
入試対策委員会	42
就職委員会	44
特別委員会	
研究委員会	46
研究倫理委員会	48
研究活動不正防止委員会	49
公開講座実行委員会	50
ハラスメント防止委員会	52
障害学生支援委員会	53
学部専門委員会	
衣料管理士課程専門委員会	54
建築・インテリア系資格専門委員会	56
文化・語学研修専門委員会	57
日本語教員養成課程専門委員会	58
課程専門委員会	
教職課程専門委員会	60
学芸員課程専門委員会	62
司書課程専門委員会	64
国際交流委員会	66

附属機関等

文化学園大学図書館	68
文化学園服飾博物館	70
文化学園ファッションリソースセンター	71
文化学園国際交流センター	72
文化学園知財センター	74
USR 推進室	76

共同研究拠点

文化ファッション研究機構	80
--------------	----

附属研究所

文化・衣環境学研究所	84
文化・住環境学研究所	86
文化・ファッションテキスタイル研究所	88
和装文化研究所	89

事務局

全学 SD 委員会	92
-----------	----

学園本部

学園本部総務部	94
学園本部施設部	96
学園本部経理部	97
IT 委員会 (IT 戦略室)	98

附：委員会委員一覧表	附 2
------------	-----

学部・学科・コース編成	附 4
-------------	-----

入学定員・収容定員・在籍学生数	附 5
-----------------	-----

全学自己点検・評価委員会委員名簿	附 6
------------------	-----

協議・審議機関

■検討組織名：大学運営会議・将来構想委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 学園創立 100 周年に向けた中期計画に添い、教育改革検討会と質保証検討会での議論を、大学運営会議、将来構想委員会に反映する。 2. ラーニング・ポートフォリオ(以下「LP」)をはじめ、教育の質保証について、さらに検討する。 3. 推薦入学者の確保、質の高い留学生の確保など、さらに検討の幅を広げることとする。 4. 短期大学部と大学の連携をさらに強化し、カリキュラムの充実や学修成果の向上、キャリアガイダンスの充実を図ることとする。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 私立学校法改正に伴い中期計画を見直した。さらに、教育改革検討会、内部質保証検討会の議論と「若手教職員を交えた将来構想委員会」の議論とを融合し、年度末に「中間まとめ」を公表し、論議を継続することとした。 2. 2019 年度から LP を本格導入した。10 月には各学部長から、学部ごとの取り組みについて報告した。 3. 推薦入試の推薦方法と推薦基準の理解を求めるとともに、その理解に基づく応募者が増加する方向にある。また、各学科とも総合的な入学者選考につとめ、殊に留学生に関して水準を向上させるべく、厳正な態度で臨んでいる。 4. 短期大学部については学生確保が困難なことから、2021 年度入試から学生募集を停止し、在学生在が全員卒業するのを待って廃止することとした。在学生の教育については、これまで短期大学部が培ってきた良き伝統を継続して変わらず取り組み、更なる学習成果の向上を図る。 【共】
次年度への 課題 (2020 年度)	1. 各検討会、将来構想委員会等の検討結果を、さらに「大学運営会議・将来構想委員会」での議論に移し、中期計画に添う実績の可視化を期す。 2. 「オンライン授業のシステム」と「教育の質保証」との関係を検討課題とするとともに、LP を通じた点検方法を検討する。 3. 入試制度の変更と学生募集の関係を点検する。 4. 現代文化学部応用健康心理学科と短期大学部ファッション文化学科の教育方法を、他学部・他学科へ発展的に継承する方策を検討する。 【共】

■検討組織名：大学運営会議・将来構想委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年6月11日	○学長より「学校教育法の改正」と「私立学校法の改正について」説明。 1. 本学の学生数・定員充足率、中途退学者数の状況について 別紙配付資料について事務局長より説明。 2. 大学生を狙う勧誘について 事務局長より説明。
2019年10月15日	○学長より2021年度における文化学園大学短期大学部学生募集について説明 学生確保が困難なことから、短期大学部の学生募集は2021年度入試から学生募集を停止し、在学生在が全員卒業するのを待って、短期大学部を廃止する旨をはかり、承認。 1. 2019年度の各学部経過報告 各学部長、短期大学部主任教授より報告。 2. 修学支援新制度について 事務局長より説明。 3. 学長より、本学内部質保証の取り組みについて、本学への不適応学生やミスマッチの学生の分析、本学における教場不足の問題について報告。
2020年2月18日	○学長より新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に関して説明 1. 私立大学を取り巻く状況について 学長より説明 2. 研究活動活性化のための具体的方策について 事務局長より説明 3. 文化学園大学運営会議規程（改定案）について 事務局長より説明。承認。 4. 学長より2020年度からの短期大学部教授会の開催について説明。
2020年3月23日	*新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。

■検討組織名： 全学自己点検・評価委員会

報告者：渡邊 秀俊

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018 年度－』のまとめと公表 2.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2019 年度－』の見直しと作成 【共】
取組の結果と 点検・評価	1.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018 年度－』のまとめと公表 文化学園大学・文化学園大学短期大学部の 42 検討機関、文化学園本部の 4 検討機関による自己点検・評価結果をまとめた自己点検・評価報告書を作成した。報告書は学園運営会議での確認を経た後に、2019 年 10 月 1 日付けで学内及び関連部署へ PDF で配信するとともに、本学ホームページにおいて外部に公表した。 本年度より、「自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応」の表を全学的に認識していただくために、これを執筆要領に加え、自己点検・評価報告書にも掲載するように改善した。また、本学が 2017 年度に受審した機関別認証評価では、独自基準として「特色ある教育研究と社会貢献」と「国際交流」を設定したことを受けて、これらの評価観点を「自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応」の表に追加する改善をした。 以上のことから、『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018 年度－』のまとめと公表については、滞りなく遂行されたものとする。次年度に向けた課題として、「取組の結果と点検・評価」欄の記載に際しては、結果の列挙にとどめることなく、結果に対する自己評価についても記載していただくよう、その主旨を執筆要領に追記することとした。 2.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2019 年度－』の見直しと作成 文化学園内の自己点検・評価の検討機関の見直しと、提出された原稿を全学自己点検・評価委員会として確認・精査する組織体制の見直しを行った。あわせて、自己点検・評価報告書の様式、執筆要領及びスケジュール等を再検討した。 2019 年から私立学校法の「学校教育法等の一部を改正する法律」が施行され、理事会・評議会等の法人運営についての点検・評価が強化された。これらの法改正に対しては、本学の自己点検・評価機関には法人事務局も含まれているので、現状の点検・評価体制で対応できていると判断し、従来の報告書の書式のまま変更せずに編集することとした。 原稿提出締め切りは 2020 年 4 月 1 日とし、2020 年 1 月の教授会にて執筆を依頼した。本学の自己点検・評価の実施体制については、毎年度、機関別認証評価の動向及び学園内の組織・運営体制の変化に対応するように見直しが図られているものとする。 【共】
次年度への課題 (2020 年度)	1.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2019 年度－』のまとめと公表 2.『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2020 年度－』の見直しと作成 【共】

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月23日	『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018－年度』の提出原稿の確認（軽微な修正報告、今後のスケジュールの確認） - その他（委員交代の方針）
2019年10月29日	- 新委員の紹介 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018－年度』完成版の確認（2019年10月1日発刊） 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2019－年度』作成方法について（添付資料の確認）
2019年12月17日	『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2019－年度』作成について（執筆要領、原稿依頼先及び添付資料の確認） - その他（原稿執筆依頼日及び提出日の確認）

■検討組織名： 全学FD委員会

報告者：金川 孝義

提出日：2020年2月19日

本年度の課題 (2019年度)	1. 2019年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 2. 2020年度「全学FD・SD研修会」、「分科会」、「FD教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」質問内容、集計方法の抜本的改革と新方式による2019年度からの「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施 4. 学生代表との対話の実施 5. 他大学・団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 2019年度「全学FD・SD研修会」の実施については、非常勤講師の参加も得て、4月2日に行った。外部講師により、「大学におけるダイバーシティやハラスメント問題と向き合う」をテーマに、近年大学におけるハラスメント問題や諸課題について、事例を挙げての講演を行った。午後にはグループに分かれて分科会を行い、「留学生とのコミュニケーション」などのテーマについて意見交換をした。 また、9月4日には全教職員の参加のもと「秋の分科会」を行い、(1)長く踏襲されてきた制度やシステムの見直しによる業務のスリム化 (2) 公平かつ効率的な職務分掌化を進めるには (3) その他をテーマに話し合った。同報告書は11月に配信したが、多くのグループからの報告にフィードバックが必要と思われる項目があり、教務課の協力のもと、全学FD委員会として12月に全教職員にフィードバックの配信を行った。 2019年度の教職員による相互の授業見学「FD教職員による授業見学ウィーク」は前期7月1日～7月13日、後期10月7日～19日に行い、アンケート調査も実施した。 2. 2020年度「全学FD・SD研修会」の企画につき、2019年度と同様に開催方針とテーマ等を検討した。2020年度「全学FD・SD研修会」は(1) 外部講師による講演（講演題目未定）(2) 学長・各学部長・事務局長の2020年度方針解説 (3) 分科会の3部構成とした。 3. 2018年度に発足した「授業アンケート小委員会」で検討を重ねて改訂に至った「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」によるアンケートを2019年度前期より実施した。 同時に、本アンケートの結果をどのように評価し、教員にフィードバックするのかの検討を開始した。 4. 8月8日に学生代表10人と全学FD委員会メンバーによる第1回の対話を行った。貴重な意見が活発になされたため、9月に全教職員に議事録を配信した。当面継続する予定。 5. 他大学、団体等の活動に関する継続した情報収集については2019年度第25回FDフォーラムに3人の委員会メンバーが参加し、他大学のFD活動の情報収集を行った。 【共】
次年度への 課題 (2020年度)	1. 2020年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 2. 2021年度「全学FD・SD研修会」、「分科会」、「FD教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」集計結果の教員へのフィードバック方法の検討とアンケート実施科目数拡大に向けての検討 4. 学生代表との対話の実施 5. 他大学・団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。 【共】

■検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月2日	1. 2019年度全学FD・SD研修会・分科会の反省 2. 2018年度第24回FDフォーラムの報告 3. 2018年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」のフィードバックスケジュールの確認と、2019年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」についての報告と改善案の検討
2019年5月21日	1. 2019年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の改善案の検討 2. 2019年度前期「FD教職員による授業見学ウィーク」実施方法の検討 3. 「学生代表との対話」について時期・メンバーの検討
2019年6月25日	1. 2019年度全学FD・SD研修会春の分科会報告書の配布についての確認・決定 2. 2019年度全学FD・SD研修会秋の分科会のテーマの検討 3. 2019年度前期「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施について確認 4. 2019年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施方法の報告
2019年7月23日	1. 2019年度全学FD・SD研修会春の分科会報告書の配布の確認 2. 2019年度全学FD・SD研修会秋の分科会のテーマの検討・決定 3. 2019年度前期「FD教職員による授業見学ウィーク」のアンケート途中結果の報告 4. 2018年度後期・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」のフィードバックの確認 5. 「学生代表との対話」の日時・場所の報告
2019年9月5日	1. 「学生代表との対話」の議事録、教職員への配信の確認 2. 2019年度全学FD・SD研修会秋の分科会の反省・報告 3. 2019年度前期「FD教職員による授業見学ウィーク」アンケート結果の配信の決定、改善案の検討と2019年度後期「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施方法の確認
2019年10月29日	1. 2019年度全学FD・SD研修会秋の分科会の報告書とフィードバックの配信の確認 2. 2019年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の方針の確認 3. 2019年度前期「FD教職員による授業見学ウィーク」の反省と改善案の検討 4. 2020年度全学FD・SD研修会の講演者、テーマの検討
2019年11月26日	1. 2019年度全学FD・SD研修会秋の分科会で挙がっていた意見へのフィードバックの確認 2. 2019年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」改善案の報告 3. 2019年度後期「FD教職員による授業見学ウィーク」の反省 4. 2020年度全学FD・SD研修会の講演会テーマの検討
2019年12月10日	1. 2019年度後期「FD教職員による授業見学ウィーク」のアンケート結果の配信の決定 2. 2019年度全学FD・SD研修会秋の分科会のフィードバックの配信日時の決定 3. 2019年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」のフィードバックの配信の決定 4. 2020年度全学FD・SD研修会のスケジュール確認と、講演者の決定、分科会の議題の検討
2020年1月21日	1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の設問の文言についての検討と決定 2. 2020年度全学FD・SD研修会のプログラムと分科会の議題の検討 3. 自己点検・評価報告書の執筆について確認
2020年2月17日	1. 2019年度後期・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」集計進捗確認 2. 2020年度全学FD・SD研修会のスケジュールと講演会の講演題目、分科会のテーマの確認 3. 2020年度前期「FD教職員による授業見学ウィーク」の日程の決定 4. 2020年度全学FD・SD研修会秋の分科会の日程の決定

協 議 機 関

本年度の課題 (2019年度)	1. 新カリキュラム体制の2年生についても、教育成果の可視化対策として、ワーキンググループの活動とLP導入の活用を図る。【大】 2. 教育研究環境改善策として、板書方法の工夫、映像・放送設備等の改修を進める。 3. 進級、卒業に関する学生支援（休・退学者の減少対策含む）のため、学部協議会、学科会議での意見交換の場を充実させ、教員間の共通認識を高める指導マニュアルを作成する。【大】 4. グローバル化を意識した環境問題の取り組みや、ボランティア活動（バザーを含む）への学生の意識の幅をコラボレーション教育等に取り入れて広げる。【大】 5. 入学定員を充足させるための策として、多方面における情報公開方法を取り入れる。（例：ファッションショーの観客動員方法としてSNS等を媒体に導入する 他） 【大】 6. USR推進室の活動の一つである、AP事業の長期学外学修プログラムを、2019度もコラボレーション科目として開講し、国内外での研修内容を質・良ともに充実させ実施する。【共】 7. 服装学の学問大系構築とし、2019年度は新たに2冊の講座発行を目指し推進する。【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 2018年度より開始した新カリキュラムは2年目を迎え、1・2年生の基礎科目の充実を図るべくアンケート形式による反省点（新カリキュラム内容や、板書・示範方法を含む）を収集した。またLP施行から学生の習熟度の確認を行った。【大】 2. 進級不可の学生を作らない対策として、学年・科目ごとに横断的検討会を開催し、各科目と担任・副担任との連携を密に図ることを確認した。【大】 3. ボランティア活動（バザーを含む）の実施が4年目となり、内容の検討を図った。【大】 4. 入学者の定員確保の策として教員の高校訪問の充実とオープンキャンパスでの説明方法の改善等を行った。結果、定員の人数と合格者の人数をほぼ一致させることができた。【大】 5. AP事業の長期学外学修プログラムは、学内外の研修先を増加させるなど改善策の検討を行った結果、国内研修の学生数は増であったが国外研修は減少した。【共】 6. 新講座として、「ファッション造形学講座（パターンメイキングの捉え方）」1冊と「ファッションデザイン学講座（ファッションデザイン）」1冊の計2冊を発行した。【大】
次年度への課題 (2020年度)	1. 新カリキュラム体制の3年目となる本年度は、多くの専門教育科目が設定されていることから学生の習熟度とともに新カリキュラムの良否が問われることとなる。そこで、LPとともに各教員が進めているティーチングポートフォリオを活用した振り返りに力を注ぎ、新カリキュラム完成年度へ向けて微調整を行う。【大】 2. 従来の90分授業15週から100分授業14週と改変したことで、設定したシラバスと実施内容との整合性や教育方法等の確認をする。また、不都合が生じた場合の改善策も見出す。【大】 3. 進級、卒業に関する学生支援（休・退学者の減少対策含む）のため、学部協議会、学科会議での意見交換の場を充実させ、教員間の共通認識を高める学生指導マニュアルを確認する。【大】 4. 大学生としての社会的責任の認識を目途とし、クラス活動やコラボレーション科目におけるボランティア活動（バザーを含む）や環境問題への取り組みを教育等に取り入れる。【大】 5. USR推進室の活動の一つである、AP事業の長期学外学修プログラムを、2020年度もコラボレーション科目として開講し、国内外での研修内容を質・良ともに充実させ実施する。【共】 6. 新カリキュラム施行3年目を受けて、各教員も服装学部の特徴を再認識し、基礎科目や専門科目の充実について、学外への公開方法を試行する。この公開は本学の社会的責任や学生募集に繋がることを意識する。【大】 7. 授業期間14週を受け教員の時間活用の充実を図り、結果を教育の現場に還元させる。【大】

■検討組織名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月1日	1. 新年度の確認事項（協議会の運営）2. 2019年度卒業研究学長賞展示案内 3. USR 推進室より新年度の計画 4. 新カリキュラムの修正・検討を報告
2019年5月28日	1. 新カリキュラムの修正を審議 2. 学内外交流について 3. ファッションクリエイション学科第34回ファッションショー開催案内 4. 学内研究発表会関係：(1)司会、世話役選出と発表者公募について (2)衣環境学共同研究申請者の発表について 5. USR 推進室：AP 事業報告 6. 2019年度の学科構想報告（各学科）7. その他 (1)服飾博物館見学について (2)「キャリアデザイン（展開編）」（コースセミナー）の計画について (3)オープンキャンパスについて
2019年6月18日	1. ファッションクリエイション学科第34回ファッションショー終了報告 2. 学外交流：(1)London College of Fashion (2)北京服装学院 3. USR 推進室：(1)AP 事業申し込み人数について (2)地域活動グループによる小・中学生ファッションショーのスタッフ体験報告
2019年7月16日	1. カリキュラムの修正を審議 2. 学外交流：(1)中国武漢紡織大学より講義依頼 (2)文化学園長野高校の出張授業報告 3. USR 推進室より香港 HKDI 出張報告 4 その他：(1)「キャリアデザイン（導入編）-フレッシュマンキャンプ-」でのマナー違反における注意喚起 (2)学内研究発表会発表者募集について
2019年9月4日	1. 学内研究発表会要旨集について 2. ファッションクリエイション学科：コラボレーション科目の2単位を卒業要件の位置付けとして案を提案 3. ファッション社会学科：「キャリアデザイン（展開編）」を2回に大別報告 4. 短期大学部：“2019年度渋谷区文化プログラム大学連携企画”に参画の報告
2019年10月8日	1. 学内研究発表会終了報告 2. USR 推進室：(1)文化祭時における卒業生対応グループの催し物案内 (2)地域連携グループの飯山担当者より 2019 年度の成果発表と学生表彰式の案内 (3)AP 事業による合同総括シンポジウム案内 3. 文化祭の展示：(1)ファッションイラストレーション展（以下「FIE」）案内(2)バザー協力依頼
2019年11月12日	1. 文化祭関係報告：(1)入場者数について (2)バザーについて (3)FIE について 2. USR 推進室より文化祭中の活動報告と御礼
2019年12月10日	1. USR 推進室：(1)2020年度活動予算案報告 (2)エコプロ 2019 参加報告 2. ファッションクリエイション学科：2020年度3年生のフィールド希望調査結果報告 3. ファッション社会学科：(1)新3年生ゼミの募集状況報告 (2)AO 入試の課題変更検討中の報告
2020年1月7日	1. 卒業研究における提出日の確認と指導方法について 2. 教授会時の時間短縮策報告：(1)行事や日程等のお知らせはメールとする (2)メールを注視 3. 出勤簿に代わりタイムレコーダーによる就業週報の提出について 4. USR 推進室より 2 月末の梅春インターンシップの参加者数報告 5. ファッションクリエイション学科：1年生のフィールド調査実施報告 6. ファッション社会学科：AO 入試におけるパワーポイントの活用について説明
2020年2月4日	1. ファッション社会学科：卒業要件修正の審議 2. ファッションクリエイション学科：第35回ファッションショー開催の案内 3. USR 推進室：AP インターンシップの受け入れ（シドニーより）の終了報告 4. 2019年度卒業研究展示の案内 5. シラバスの執筆の依頼（チェック含む） 6. ファッション社会学科：ボランティアの実施方法を改定
2020年3月5日	1. 学長賞展示案内 2. 卒業研究発表会の報告 3. USR 推進室：(1)AP における国内研修の途中報告 (2)ニューヨーク研修の報告 4. ファッションクリエイション学科：(1)第35回ファッションショー準備のための3月活動変更について (2)2020年度「スタディスキルズ」の日程について 5. ファッション社会学科：1年生の「オリエンテーション」、「キャリアデザイン（導入編）-フレッシュマンキャンプ-」は担任・副担任が計画 6. 短期大学部：2021年度からの短期大学部新入生募集停止について

本年度の課題 (2019 年度)	1. 両学科 4 学年とも新コース体制となることを受け、カリキュラムツリーの点検を通して、科目編成、科目数、科目内容の見直しと整備をはかるとともに 造形学部新コース体制に即した基礎造形教育のあり方を見直し、再構築する。 2. 学生数の大幅増加に伴い、授業体制の工夫と改善、また各研究室と連携し演習室、実習室の整備を図る。 3. コース数の大幅減に伴い「造形学部卒業研究展」の展示方法を見直すなど、新コース体制にふさわしい新たなあり方を検討し、更なる活性化を目指す。 4. 本学部の特色である「新宿・渋谷の立地を生かした都市型連携教育」を積極的に推進するとともに、産学連携、地域連携型教育の活性化に努め、各学科、コースの専門性に即した新たな連携先を開拓する。 5. 「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」は、「卒業研究優秀作品」「地域・産学連携活動報告」「各種デザインコンテスト・建築コンペ入賞」の 3 本の柱を中心としてさらに内容の充実を図り、学外連携先企業や就職先企業、高校訪問の際の説明資料等、本学部教育内容周知に広く活用する。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 2019 度から全学年が新コース体制になったことに伴い、学則及び 3 つのポリシーの見直しを行い、現状のコース編成と整合させる内容に改めた。デザイン・造形学科では、基礎造形教育科目のシラバスの見直しを行った。建築・インテリア学科では、講義系科目の内容重複を整理して科目編成のスリム化を図った。これらにより、当初の課題は達成できた。なお、染織研究室は、大学の中期計画にあった「服装学部への移管」を変更し、造形学部所属のままとし、服装・造形・現代文化の 3 学部に寄与することとした（2020 年 2 月の学部長会にて決定）。 2. デザイン・造形学科は 16 階の教場と 11 階の教場の座席数を増やした。建築・インテリア学科では、2020 年度から建築デザイン研究室 a と建築デザイン研究室 b、インテリアデザイン研究室を 1 部屋に集約することにより、学生の演習室を増やすための移転を行った。以上により、学生数の増加に対応する教場の充実が図られた。 3. 本年度の造形学部卒業研究展は、2019 年 2 月 9 日～11 日に開催した。3 日間の来場者数は、昨年の 4 日間より約 20%増加した。展示方法もコースの減少に即して効果的なものにする工夫がなされた点で評価できる。 4. 7 つの事業を計画したが、実施したのは「多摩産材を活用したインテリア小物のデザイン・制作」「長野県須坂市の古民家再生プロジェクト」「『染の小道』新宿中井・落合地域活性化プロジェクト」「ネクタイコラボレーション展」「デコブラインドのデザインと制作」の 5 事業に留まった。学外連携事業の計画段階での精査が課題として残った。 5. これまでの「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」は、卒業研究作品を掲載する図録の性格が強かったが、2019 年度からは「学外連携教育」や「造形学部の特色ある教育」についてもより詳細に掲載し、教育成果報告書の性格を強調する広報媒体とした。なお、2018 年度の報告書は、新入生、保護者懇談会出席者、コース分け年次生（2 年次生）、卒業年次生全員に配布し、造形学部での学びの方向付けや学修成果の確認のための資料として有効活用できた。 【大】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. アドミッション・ポリシーを基準にして、各種の入学試験における評価観点を整備する。 2. ディプロマ・ポリシーを基準にして、教育課程とコース編成の見直しを図る。 3. 学生の主体性を育成するための学修環境の整備を実施する。 4. デザイン・造形系の学生のキャリア支援策を検討する。 5. 退学者・休学者の原因を分析し、対処方法について検討する。 6. 教員の研究活動の活性化を図るための具体的方策を実行する。 7. 学外連携教育、特色ある教育の活性化と学外公表の促進を図る。 8. 卒業研究展の主旨を、「教育成果の公表」から「学生の学修成果の公表」に転換する。 【大】

■検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月1日	1. 新任教員・副手等の紹介 2. 2019年度の造形学部の方針について 3. 2019年度の造形学部入学生数について 4. 2019年度「造形学部共通経費」申請について 5. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」について 6. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」について 7. その他
2019年5月28日	1. 新任教員・副手等の紹介 2. 2020年度の授業体制について 3. 2020年度のカリキュラム変更の検討について 4. 学内研究発表会について 5. 造形学部教員役割分担について 6. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」について 7. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」について 8. 第1回オープンキャンパス（5/25）について 9. AUB 留学説明会（5/24）について 10. 卒業研究展について 11. その他
2019年6月18日	1. 学生生活指導について 2. 第2回オープンキャンパス（6/9）について 3. 学内研究発表会について 4. カリキュラム変更について 5. 2020年度の入学式・新入生オリエンテーションについて 6. 『研究戦略検討会 活動のまとめ』について 7. その他
2019年7月16日	1. カリキュラム変更について 2. 総合教養科目に関する検討について 3. 2020年度の入学式・新入生オリエンテーションについて 4. 『研究戦略検討会 活動のまとめ』について 5. その他
2019年9月5日	1. A0入試1期面接（9/7）について 2. オープンキャンパス（7/20、8/4、8/25）について、サマーオープンカレッジ（8/1～3）について、授業公開（7/20）の振り返り 3. 2021年度入学案内について 4. 学園創立100周年に向けた学科の中期計画-2018年度の振り返り 5. 大学意思決定の仕組みについて 6. その他
2019年10月8日	1. A0入試1期の入学手続き情報について 2. オープンキャンパス（9/28）の振り返り 3. 2019年度の造形学部の在籍者数について 4. 文化祭について 5. 卒業研究展について 6. その他
2019年11月12日	1. A0入試2期、編入学試験の判定会議結果について 2. 文化祭について 3. コースセミナーについて 4. 作品コンペ等に関する著作権教育について 5. 研究活動活性化のための具体的方策について 6. 2020年度予算計画に係る提出書類について 7. その他
2019年12月10日	1. 推薦入試、外国人留学生入試1期の判定会議の結果について 2. コースセミナーの振り返り 3. 卒業研究展について 4. 2020年度造形学部共通経費について 5. 2020年度非常勤講師担当申請について 6. シラバス調整について 7. その他
2020年1月7日	1. 卒業研究展について 2. コースセミナーの振り返り 3. 2020年度非常勤講師担当申請について 4. その他
2020年2月4日	1. 一般入試A日程受験状況、センター試験利用入試I期出願状況について 2. 2019年度卒業研究展について 3. 2020年度卒業研究展について 4. その他
2020年3月5日	1. 一般入試B日程、センター試験利用入試II期、外国人留学生入試2期の志願者及び合格者について 2. 染織研究室の移管について 3. 2020年度卒業研究展の振り返り 4. その他

本年度の課題 (2019 年度)	1. 2019 年度に「スタディスキルズ」がファッションクリエイション学科のみを対象に総合教養科目の A 系列で開講されることとなった。これを受け、本協議会として初年次教育に相当する新設科目を開講すべく、内容の検討と教務委員会への申請を行う。【大】 2. 新入生の英語のクラス分けテストに多大な時間とマンパワーを必要としてきた。学科別にそれぞれ対応をしてきたが、Google フォームを使用したクラス分けテストを試行的に実施し、適切なクラス分け方法について引き続き検討する。【共】 3. 総合教養科目の全体を見直し、適切に削除、新設を行って、再構成に向けた検討をする。また、資格関連科目のうち、本協議会が関与するものについて再検討する。【共】 4. オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5. 「文化学園大学・教職研究会」が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を具体化する。【大】
取組の結果と 点検・評価	取り組みの結果 1. 初年次教育についての科目新設は見送ることとなった。代わって、本学の教養教育の在り方を見直すこととなり、まずはカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを策定した。【大】 2. Google フォームを利用したクラス分けテストには運用に問題があり、2020 年度は業者のテストを導入することとしたい。対象者や実施方法についてはさらに検討する。 中国語の学習環境を改善すべく、非常勤講師を手当てし、クラスを増やした。【共】 3. 総合教養科目の削除・新設については継続して検討する。本年度発足した第 2 次総合教養検討会とも連携して、本学の教養教育の在り方と、そこでこの協議会が果たす役割を再検討していくこととなった。【共】 4. 引き続き、オープンキャンパスにおける A0 入試・面接対策講座を担当した。 文化祭期間中の 11 月 3 日に「第 7 回文化学園大学・教職研究会」を開催した。 高校訪問は概ね 1 人 2 校を担当した。【共】 5. 「第 7 回文化学園大学・教職研究会」には 22 人の卒業生が出席した。また、在学生も 6 人参加し、グループディスカッションでは有意義な話し合いができた。【大】 点検評価 2019 年度に設定した課題は概ね達成することができた。
次年度への 課題 (2020 年度)	1. 2019 年度に策定したポリシーに基づき、本学の教養教育の在り方を具体的に検討する作業に入る。【大】 2. 2020 年度から実施する英語運用能力評価協会のテストについて、実施結果を検証し、さらに次年度の実施に向けて準備をする。【共】 中国語の学習環境改善にさらに取り組む。【共】 3. 本協議会が扱うべき範囲と事柄を明確にする。また、資格関連科目のうち、本協議会が関与するものについて再検討する。【共】 4. オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5. 「文化学園大学・教職研究会」が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を具体化する。【大】

■検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月1日	新年度メンバー確認 1. 小グループ報告 初年次教育の今後のあり方／オープンキャンパス当番表について／「英語」のクラス分けテストについて 2. 委員選出のブロック会議
2019年5月28日	1. 委員会報告 100分授業について／高校訪問について 2. 小グループ報告 初年次教育新設科目について／オープンキャンパス当番表について／英語のクラス分けテストについて／中国語のクラス編成について／宗教団体への勧誘について
2019年6月18日	1. 委員会報告 100分授業について／学生相談室の利用について 2. 小グループ報告 初年次教育新設科目について／オープンキャンパス当番について／A0中国語の履修者数について
2019年7月16日	1. 委員会報告 100分授業移行後の遅刻の扱いについて 2. 小グループ報告 コラボレーション科目について／中国語履修者数の是正について
2019年9月4日	1. 委員会報告 100分授業移行後の遅刻の扱いについて／喫煙所について 2. 小グループ報告 コラボレーション科目について 3. その他 後期履修登録について
2019年10月08日	1. 委員会報告 2020年度授業日程案について／授業の100分14週化について 2. 小グループ報告 総合教養科目について／「英語」のクラス分けテスト、中国語のクラス編成について
2019年11月12日	1. 委員会報告 新たな給付奨学金・授業料減免について／高校訪問について 2. 小グループ報告 総合教養の在り方について検討中／第7回「教職研究会」報告／中国語のクラス編成について 3. その他 「研究活動活性化のための具体的方策について」のご意見をいただいた。
2019年12月10日	1. 委員会報告 東京都消費生活総合センターの出前講座について／授業改善アンケートについて 2. 小グループ報告 総合教養科目の見直しについて／中国語クラス編成について 3. その他 外国語科目の検討も進めたい
2020年1月7日	1. 小グループ報告 ポリシーについて／英語プレイスメントテストについて／シラバス執筆とチェックについて 2. その他 一般入試について／後期定期試験について
2020年2月4日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告 ポリシーについて／英語プレイスメントテストについて
2020年3月5日	1. 委員会報告 後期追加登録アンケートについて／オープンキャンパスの教員役割について 2. 小グループ報告 ポリシーについて 「英語基礎力テスト」の実施について

本年度の課題 (2019 年度)	1. 学生数の増加に対応した教育環境（特に実習室）の整備を図り、さらに充実した教育と大学生活への支援体制を作り、実施する。応用健康心理学研究室を軸として、学生の心身の健康への支援に取り組む体制（ピアサポートを含む）を構築する。 2. 2019 年度入学生から国際文化・観光学科の入学定員を 30 人から 50 人に変更したため、教員の補充を図り、観光分野を強化していく。 3. 2020 年度からの学部名称変更に伴い、現行のカリキュラムの見直しを図る。 4. 休・退学者の情報収集・分析を継続して行う。遅刻、欠席が多い学生には個別面談を継続して行い、研究室で情報を共有し早期に対応し、退学者の減少を図る。 5. 2018 年度の成果を踏まえ、より効果的な LP のシステムを構築する。 6. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高め、各学科でのインターンシップへの参加率 25%を目指す。就職内定率は 90%を維持する。 7. 増加する留学生へのサポート体制を構築する。留学生との定期的なミーティングを行い、日本語指導、大学生活全般にわたるサポート等、きめ細かな指導を行う。【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 国際ファッション文化学科は実習室を 1 つ増設できたが、まだ十分とは言えない。国際文化・観光学科は、副担任の人数を増やすなどして学生数増加に対応した。ピアサポートに関しては、学生同士のつながりを強化する体制の基礎作りができ一定の結果が得られた。 2. 国際文化・観光学科は観光分野の教員の補充に関しては適任者が見つからず補充できなかった。 3. 学部名変更にとまなう現行のカリキュラムの見直しの前に、3 つのポリシーの見直しを図った。また学部共通の総合教養及びキャリア形成教育科目に関してカリキュラム改定を行った。 4. 休退学者の情報収集・分析を継続して行っており、研究室で情報を共有し早期に対応し学生への面談や保護者への連絡など対応しているが、減少にまではいたっていない。 5. 国際ファッション文化学科は、在籍する学生には目標管理シートを入学時から使用していなかったため、なかなか効果が見られなかった。国際文化・観光学科は、2018 年度より LP に対応する科目を増やせた。応用健康心理学科は 2018 年度の方法を踏襲した。 6. 学部全体のインターンシップへの平均参加率は 19%であった。学科により参加のバラつきがあった。 7. 留学生へのサポートはチューター制度、日本語の授業、担任・副担任によるケアを中心に行った。また必要がある時には学生相談室の協力も得ることができた。【大】
次年度への 課題 (2020 年度)	1. 学生数増加に対応した更なる教育環境の整備を図る。 2. 2019 年度の国際文化・観光学科の入学定員増加に対応するべく教員の補充をする。 3. 現行のカリキュラムの更なる見直し検討を必要に応じて行う。 4. 休退学者の情報収集・分析を継続して行う。研究室で情報を共有し早期に対応し、休退学者の減少を図る。 5. 各学科の特性を生かし、より効果的な LP システムを構築する。 6. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高め、各学科でのインターンシップへの参加率 25%を目指す。就職内定率は 90%を維持する。 7. 留学生へのサポート体制を構築する。日本語指導、大学生活全般にわたるサポート等、きめ細かな指導などをさらに行う。【大】

■検討組織名：現代文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月1日	1. 新任教員紹介 2. 2019年度の新入生について 3. 学部名変更と3つのポリシー変更について 4. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」について
2019年5月28日	1. 4月の新入生オリエンテーション時のクラス集会について 2. 学内発表会について 3. 入学者選考判定委員について 4. 日本語学校の指定校について
2019年6月18日	1. 現代文化学部のカリキュラム改定(自由選択科目枠設置)について 2. 学部名変更に伴う各学科のポリシーの見直しについて 3. 全学自己点検・評価委員交代について
2019年7月16日	1. 国際ファッション文化学科のカリキュラム改定について 2. キャリア形成教育科目のカリキュラム改定について 3. 総合教養科目とコラボレーション科目の単位数について 4. 教員の夏季休暇について
2019年9月4日	1. 8月のオープンキャンパスの結果について 2. 国際ファッション文化学科のシアトルでのファッションショーについて 3. 現代文化学部のカリキュラム改定について
2019年10月8日	1. 大学学則変更（第3条3国際文化・観光学科の箇所）について 2. オープンキャンパスの結果について 3. 文化祭について
2019年11月12日	1. 研究活性化の方策(案)について 2. 文化祭の結果について 3. 小田急電鉄とのプロジェクト報告
2020年1月7日	1. 2020年度のシラバス執筆について 2. 2020年度「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」の日程変更について 3. 定期試験実施に関するアンケートについて 4. 卒業研究発表会の日程について
2020年2月4日	1. カリキュラム・ポリシーの文中の表現変更と各ポリシーの再検討について 2. シラバス調整ワーキンググループについて 3. 卒業研究発表会結果について 4. 新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について
2020年3月5日	1. カリキュラム・ポリシーの変更について 2. 文化学園大学の一般職員採用に関して 3. ハラスメント研修会及び資料配布について 4. 各学科の休退学者リストの作成依頼について 5. 喫煙マナーについて

本年度の課題 (2019 年度)	1. 新カリキュラムの内容を修正して充実を図り、学修成果の点検と評価を得る。 2. LP を担任・副担任が 2 年間継続支援して取り組むことにより、LP から各自の課題の達成及び自己管理ができる仕組みを作り、PDCA サイクルに則った意識の涵養をはかる。 3. 各クラスの担任・副担任及び、学科会議を通して学生の学修全般における情報を共有し、学修意欲の向上、就職支援につなげる。 4. 学修成果を広く学外へ向けて発信し、評価を得る。製作実習で学んだ技術を生かし、文化祭におけるバザーや社会貢献活動等、ボランティア精神の涵養として継続的に推進する。 5. 入学者確保と本学の学びの周知のため、広報戦略を見直して首都圏以外（海外も含む）の高校生へも教育内容の魅力が伝わるように Web 情報発信する。 【短】
取組の結果と 点検・評価	1. 2018年度に完成年度を迎えた新カリキュラムの内容について検討を行い、2019年度は修正を加え学生が個々にキャリアプランを掲げ、ファッション分野3領域から科目を横断的に履修できる体制を継続して、就職等を見据えた実学的教育を推進することができた。教育成果発表の場として2年次科目の「総合演習（チームによるブランド企画）」「総合演習（卒業制作）」による口述発表会及び卒業展示を開催し、実務者から講評を得られ教育内容の充実が図れた。 2. LP をキャリア形成教育科目の 4 科目で実施した。ルーブリックを示し、意識の変容をレポートやリアクションペーパーを通して可視化し、自己評価と教員評価を評価得点のチャートにしたことにより、学びの過程を省察でき、主体的な学びからキャリアデザインの実践教育の充実が図れた。また、教員は学生のルーブリック評価を自己の指導力向上のための省察に利用することができた。 3. 各クラスの担任・副担任がキャリア支援担当教員として密接に関わり、「キャリアデザイン導入編 - フレッシュマンキャンプ -」から始まるキャリアデザイン教育の内容を充実させ、進路相談や就職支援を行った。「キャリアデザイン実践編Ⅱ」では、卒業生講話を通し身近なロールモデルを提示したことでキャリアプランや就職意識を喚起させ、就職決定率 100%を達成することができた。 4. 2019 年度渋谷区文化プログラム大学連携企画に参加し、渋谷区との地域連携や他大学とのコラボレーション、イベントを運営した NPO 法人 MERRY PROJECT との運営協力を通して、イベントの目的であった共生社会への契機（SDGS の啓発と実践）にすることができた。製作実習で学んだ技術を生かし、文化祭バザーの商品制作、「NPO 法人こども環境活動支援協会」の「Baton Bag Project」、国際奉仕団体キワニスによるキワニスドールの製作に参加することでボランティア精神の育成を図ることができた。 5. 特色ある本学の教育活動の成果について、大学 HP による授業紹介ページや、ツイッターを通して発信し、公表した。本学学生が母校訪問や近況報告の手紙を送付する等の取り組みにより、高校へ本学の情報を提供することができた。2 年次科目「総合演習（チームによるブランド企画）」「総合演習（卒業制作）」の発表会の開催について、在学生への周知、内定企業や母校への案内状送付、保護者への周知など学内外に積極的に広報したことにより、来場者の増加を図ることができた。 【短】
次年度への課題 (2020 年度)	1. カリキュラムの充実を図り、学修成果の点検と評価を得る。 2. 学生の LP を継続して取り組み、PDCA サイクルに則った学生の意識の涵養をはかるとともに、教員によるティーチング・ポートフォリオを作成し、教員の教育活動の改善に取り組む。 3. 各クラスの担任・副担任及び、学科会議を通して学生の学修全般における情報を共有し、学修意欲の向上、就職支援につなげる。 4. 学修成果を広く学外へ向けて発信し、評価を得る。学生のボランティア精神を育成するために製作実習で学んだ技術を生かし、社会貢献活動として文化祭におけるバザーや学外のイベント等への参加を継続的に推進していく。 【短】

■検討組織名：短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月15日	1. 2019年度 第2ブロック・短大部ファッション学科研究室役割一覧表(案)について審議 2. 学生の状況把握の報告 3. 授業・行事について報告 4. キャリア形成教育科目について報告 5. 委員会・係り報告
2019年5月13日	1. 短期大学部ファッション学科定員変更について報告 2. 新入生について報告 3. カリキュラムについて報告 4. 授業関係について報告 5. 入試関係について報告 6. 学外活動について報告 7. 委員会・係り報告
2019年6月10日	1. 短期大学部ファッション学科のカリキュラム変更について審議 2. 授業関係について報告 3. 学外活動について報告 4. 委員会・係り報告
2019年7月18日	1. 「今後の短期大学部ファッション学科について」の審議 2. カリキュラム変更についての報告 3. 短期大学部ファッション学科の学生募集について報告 4. 授業関係について報告 5. 入試関係について報告 6. 学外活動について報告 7. 学生の状況把握の報告 8. 委員会・係り報告
2019年8月8日	1. 「今後の短期大学部ファッション学科について」の審議 2. 授業関係について報告 3. 入試関係について報告 4. 学外活動について報告 5. 委員会・係り報告
2019年9月17日	1. 授業関係について報告 2. 入試関係について報告 3. 文化祭について報告 4. 学外活動について報告 5. 委員会・係り報告
2019年10月10日	1. 授業関係について報告 2. 文化祭について報告 3. 入試関係について報告 4. 委員会・係り報告
2019年11月14日	1. 文化祭について総評 2. 「研究活動活性化のための具体的方策(案)」について報告 3. カリキュラムについて報告 4. 授業関係について報告 5. 短期大学部ファッション学科文化祭について報告 6. 入試関係について報告 7. 委員会・係り報告
2019年12月12日	1. 学外活動の参加について審議 2. 学則変更について報告 3. 2021年度入学生入試制度について報告 4. 文化祭について報告 5. 「キャリアデザイン展開編」について報告 6. ShopD60 教室照明予算について報告 7. 他学部他学科授業担当依頼について報告 8. 2020年度コラボレーション科目について審議 9. 授業関係について報告 10. 入試関係について報告 11. 学外活動について報告 12. 委員会・係り報告
2020年1月21日	1. 「ファッション造形基礎実習」「アパレル製品論Ⅱ」の授業内容について審議 2. オリエンテーションの内容確認の審議 3. 「キャリアデザイン導入編-フレッシュマンキャンプ-」1泊2日になるため内容確認の審議 4. 服装社会学研究室と服装史学研究室の統合について報告 5. 「英語」プレースメントテスト実施について報告 6. カリキュラム関連について報告 7. 外部の取り組みについて報告 8. 委員会・係り報告
2020年1月22日	1. 1・2年の在校生に2021年度以降の短期大学部学生募集停止について報告
2020年2月14日	1. HP・ツイッターの掲載について審議 2. 2020年度2年生科目「情報とコンピュータ」について報告 3. クラス運営関係(学生状況報告) 4. カリキュラム関連報告 5. 外部の取り組みについて報告 6. 委員会・係り報告
2020年3月5日	1. 2020年度以降の短期大学部教授会について報告 2. 「キャリアデザイン導入編-フレッシュマンキャンプ-」1泊2日になるため内容の報告 3. 「キャリアデザイン展開編」予算について報告 4. 「英語」プレースメントテスト実施について報告 5. カリキュラムについて報告 6. 委員会・係り報告

審 議 機 関

■検討組織名：生活環境学研究科委員会

報告者： 米山 雄二

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. グローバルファッション専修の研究テーマに対応した指導体制及び履修条件等を検討・整備し、大学院教育・研究のグローバル化を推進する。 2. 留学生への対応策として取り上げた大学院入試の見直し及び日本語科目の新設の検討を進める。 3. 服装造形及び服装デザイン分野の教育・研究指導を充実するため、服装学部と連携して若手教員が在職しながら修士及び博士学位を取得できる環境整備を検討する。 4. 大学院科目を学部学生が受講できる仕組みを構築し、学内生の大学院進学増加を図る。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. グローバルファッション専修には入学募集による学生、仏国 Ensad との協定に基づく学生、及び中国浙江理工大学との協定に基づく学生を受け入れており、それぞれ異なる専門性がある。学生の研究テーマがファッションデザイン、ファッションビジネス、機能デザインの 3 分野であることに対応した指導体制と履修条件について、学部教育を含めた具体案を策定し、大学院セミナー及び検討グループにて議論した。他大学の動向を参考に継続検討する。 2. 留学生問題への対策を議論した結果、入学後の日本語科目の新設よりも入学時の日本語能力試験の重視、及びグローバルファッション専修における英語能力要件の設定を行うこととした。 3. 服装造形及び服装デザイン分野の教員養成として、若手教員が在職しながら本学大学院にて学位を取得できる仕組みについては、服装学部との連携及び労働条件の課題が大きいことを把握した。他大学の教員が本学大学院に入学して学位取得している例及び本学園の人事制度の適用可能性から、継続検討する。 4. 大学院進学希望の学部学生が学部在学中に大学院の授業を受けることを認める案を検討したが、各学部における条件を統一する必要がある、2020 年度も検討継続する。 【大】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 特定課題研究（論文及び作品制作）による修士学位取得、社会人大学院生の受け入れ体制の整備、外部の研究機関を活用した実践的教育の導入を検討し、時代のニーズに適合した大学院教育・研究を推進する。 2. 服装造形及び服装デザイン分野の教育・研究の充実のため、服装学部と連携して博士学位を取得できる若手教員の育成体制づくりを継続検討する。 3. 大学院進学希望の学部学生が学部在学中に大学院の授業を受けられる条件の整備とともに、大学院共通科目に心理学分野の科目を新設、及び被服環境学における心理学分野の研究を含めることにより、博士前期から後期課程までの充実と学内生の増加を図る。 【大】

■検討組織名：生活環境学研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月17日	1. 2019年度大学院研究科委員会構成員、2. ティーチングアシスタント、3. 被服学・生活環境学特別研究の指導教員、4. 担当教員の変更、5. ENSADからの受け入れ判定、6. 専修名変更及びカリキュラム変更、7. 大学院入試の変更点、以上7項目を審議し、承認。8. 根岸愛子特別奨学金及び文化学園大学大学院特別奨励金奨学生、9. 大学院セミナー日程案、について報告。 【被服環境学専攻委員会】 1. 修了年次生の指導教員、2. 本年度休講科目、以上2点を承認。3. 2020年度専修名変更及びカリキュラム変更は取り下げ。
2019年5月15日	1. 科目担当教員の変更、2. 研究指導グループの申請、3. 大学院セミナーの日程と内容・参加教員、4. 武漢紡織大学からの大学院志願者の選考内容、5. 2020年度学生募集におけるグローバルファッション専修の英語要件、提示作品の自己証明、浙江理工大学とのダブルディグリー、以上5項目を審議し、承認。 【被服環境学専攻委員会】 1. 2020年度の講座名変更及びカリキュラム変更を審議し、承認。
2019年6月12日	1. 研究指導グループの申請、2. 大学院セミナーにおける中間発表と運営方法、及びグローバルファッション専修の活動プラン、3. グローバルファッション専修の入試選考手順、以上3項目を審議し、承認。 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文2件の受理と公聴会の日程について審議し、1件は承認、1件は保留とした。
2019年7月17日	1. 被服学特別研究の修士論文1件の審査教員、2. 指導教員の追加、3. 科目等履修生の入学許可、以上3項目を審議し、承認。4. 大学院セミナーでの学生アンケート概略を報告、5. 2020年度大使館推薦による国費外国人留学生の受入れ審議方法を確認。 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文受理保留の解除、及び公聴会の日程、2. リサーチアシスタント、以上2点を審議し、承認。
2019年9月5日	1. 2019年度生活環境学研究科修了判定、2. 大使館推薦による国費外国人留学生の日程変更の通達に伴う受け入れ判定日、以上の2項目を審議し、承認。3. 修士論文の概要書式及び説明会日程、4. 文化祭展示を確認。 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文の最終審査及び修了判定を審議し、2人に学位授与を承認。
2019年10月16日	1. 研究指導グループの申請について審議、2. 修士論文の説明会及び資料の最終確認、以上2項目を審議し、承認。3. 文化祭展示準備情報、4. 研究の活性化、5. 浙江理工大学とのダブルディグリープログラムの協定延長、以上3項目を報告。 【被服環境学専攻委員会】 1. 学位論文に使用する国外学会誌への投稿論文について審議し、承認。
2019年11月13日	1. 2020年度休講科目、2. グローバルファッション専修の被服学特別研究の指導教員、3. 大学院セミナーの日程、以上3項目を審議し、承認。4. 文化祭展示終了の報告。 【被服環境学専攻委員会】 1. 学位論文に使用する国外学会誌への投稿論文、2. 博士後期課程における指導時間の設定への検討、以上2項目を審議し、承認。
2019年12月4日	1. 浙江理工大学ダブルディグリーの試験判定、2. 担当教員の変更、3. 指導教員の追加、4. 学生異動、以上4項目を審議し、承認。5. シラバスチェックの方法とワーキンググループメンバー、6. 2019年・2020年度年間行事担当者、以上2項目を協議し、決定。 根岸愛子奨学金及び大学院特別奨励金の募集について。 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士後期課程の指導時間設定について審議し、承認。
2020年1月28日	1. 修士論文審査教員、2. 科目担当教員及び指導教員の変更、以上2項目を審議し、承認。3. 修士論文抄録提出及び発表会について、4. 2020年度大学院研究科委員会の日程(案)を提示。 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文3件について審議し、2件受理、1件を不受理。2. 博士論文1件の審査教員、3. 科目担当教員の変更、4. 2020年度博士後期課程入試の論述審査員の追加、以上4項目を審議し、承認。5. 審査教員及び公聴会・口頭試問日程は後日再審議へ。
2020年1月31日	【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文1件の審査教員及び公聴会・口頭試問日程について再審議し、承認。
2020年2月19日	1. 2019年度修士論文及び修了作品の修了判定、及び卒業式の代表を選出、2. 科目担当教員の変更、3. 2020年度の特任教授、4. 学生異動、以上4項目を審議し、承認。5. 修士論文発表会における準備状況、6. 大学院特別講義A/Bの内容を報告。
2020年3月5日	【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文2人の最終審査及び修了判定を審議し、1人に学位授与を承認。

■検討組織名： 国際文化研究科委員会

報告者：中沢 志保

提出日：2020 年 3 月 31 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 教育面においては、国際文化専修・国際ファッション文化専修・健康心理学専修のカリキュラムを学術的に再検討して、学部生の進学先として魅力あるイメージを明確に打ち出す。 2. 設置科目に応じた教員の補充を検討する。 3. 研究面においては、国際文化研究科の担当教員全員が各専門分野の論文発表の機会をもつよう勧めていく。 4. 院生に関しては、留学生も含めて、修士課程修了後の進路の更なる研究、あるいは、社会貢献に結びつくように指導していく。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 国際文化研究科 3 専修のカリキュラムを再検討し、国際文化専修ならびに健康心理学専修において、特論科目の位置づけなどを明確にした。国際ファッション文化専修に関しては、修士論文の指導教員の確保が困難などの理由で、2020 年度は募集中止とすることが決まった。 2. 2018 年度において 4 人の退職者が出たことを受けて、新たな教員の補充を検討した。その結果、設置科目に応じた 3 人の新たな教員を、2020 年度から補充することが決まった。 3. 国際文化研究科の担当教員が、それぞれの専門分野で研究を進め成果を発表した。その成果は、関連する学会、学内研究発表会での報告等の形で明示された。 4. 今年度の修了生 3 人のうち、1 人は他大学の博士課程に進学（予定）、2 人（留学生）は帰国し、自身の研究を生かせる分野への就職が決まった。 【大】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 教育面においては、国際文化専修・健康心理学専修のカリキュラムに更なる検討を加え、学部生の進学先として魅力あるイメージを明確に打ち出す。同時に、本学の他学部や他大学からの進学者及び留学生の受け入れを念頭に置いた教育・指導体制の充実を図る。 2. 設置科目に応じた教員の補充を、継続して検討する。 3. 研究面においては、国際文化研究科の担当教員が、論文発表・学会報告・著書の発行などの形で研究成果を発表するよう勧めていく。 4. 院生に対しては、修士課程修了後の進路についての指導を強化する。 【大】

■検討組織名：国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月17日	1. 2019年度大学院研究科委員会構成員、2. ティーチングアシスタント、3. 被服学・生活環境学特別研究の指導教員、4. 担当教員の変更、5. ENSADからの受け入れ判定、6. 専修名変更及びカリキュラム変更、7. 大学院入試の変更点、以上7項目を審議し、承認。8. 根岸愛子特別奨学金及び文化学園大学大学院特別奨励金奨学生、9. 大学院セミナー日程案、について報告。
2019年5月15日	1. 科目担当教員の変更、2. 研究指導グループの申請、3. 大学院セミナーの日程と内容・参加教員、4. 武漢紡織大学からの大学院志願者の選考内容、5. 2020年度学生募集におけるグローバルファッション専修の英語要件、提示作品の自己証明、浙江理工大学とのダブルディグリー、以上5項目を審議し、承認。
2019年6月12日	1. 研究指導グループの申請、2. 大学院セミナーにおける中間発表と運営方法、及びグローバルファッション専修の活動プラン、3. グローバルファッション専修の入試選考手順、以上3項目を審議し、承認。
2019年7月17日	1. 被服学特別研究の修士論文1件の審査教員、2. 指導教員の追加、3. 科目等履修生の入学許可、以上3項目を審議し、承認。4. 大学院セミナーでの学生アンケート概略を報告、5. 2020年度大使館推薦による国費外国人留学生の受入れ審議方法を確認。
2019年9月5日	1. 2019年度生活環境学研究科修了判定、2. 大使館推薦による国費外国人留学生の日程変更の通達に伴う受け入れ判定日、以上の2項目を審議し、承認。3. 修士論文の概要書式及び説明会日程、4. 文化祭展示を確認。
2019年10月16日	1. 研究指導グループの申請について審議、2. 修士論文の説明会及び資料の最終確認、以上2項目を審議し、承認。3. 文化祭展示準備情報、4. 研究の活性化、5. 浙江理工大学とのダブルディグリープログラムの協定延長、以上3項目を報告。
2019年11月13日	1. 2020年度休講科目、2. グローバルファッション専修の被服学特別研究の指導教員、3. 大学院セミナーの日程、以上3項目を審議し、承認。4. 文化祭展示終了の報告。
2019年12月4日	1. 浙江理工大学ダブルディグリーの試験判定、2. 担当教員の変更、3. 指導教員の追加、4. 学生異動、以上4項目を審議し、承認。5. シラバスチェックの方法とワーキンググループメンバー、6. 2019年・2020年度年間行事担当者、以上2項目を協議し、決定。根岸愛子奨学金及び大学院特別奨励金の募集について。
2020年1月28日	1. 修士論文審査教員、2. 科目担当教員及び指導教員の変更、以上2項目を審議し、承認。3. 修士論文抄録提出及び発表会について、4. 2020年度大学院研究科委員会の日程(案)を提示。
2020年2月19日	1. 2019年度修士論文及び修了作品の修了判定、及び卒業式の代表を選出、2. 科目担当教員の変更、3. 2020年度の特任教授、4. 学生異動、以上4項目を審議し、承認。5. 修士論文発表会における準備状況、6. 大学院特別講義A/Bの内容を報告。

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：2020年4月1日

開催年月日		会議等の開催記録
2019年4月1日	審議事項 報告事項	1. 学生異動について 2. 研究生・科目等履修生入学許可について 1. 委員会報告 2. 2019年度新入生数について 3. 2020年度募集用の入案内書等について 4. 2019年度入学式・保護者懇談会・新入生学科紹介・オリエンテーションについて 5. キャリア形成教育科目「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」打ち合わせについて 6. 2019年度総合消防訓練について 7. 学生異動について（報告）
2019年5月28日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 科目等履修生入学許可について 4. 公欠について 1. 委員会報告 2. 2020年度入試関係について 3. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」について 4. 学生異動について（報告） 5. 研究生・科目等履修生退学について（報告）
2019年6月18日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 公欠について 1. 委員会報告 2. 学生異動について（報告）
2019年7月16日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 1. 委員会報告 2. 2020年度入試関係について 3. 前期定期試験について 4. 教員の夏季休暇等について 5. 2020年度教員の国内外研修申請について 6. 学生異動について（報告）
2019年9月4日	審議事項 報告事項	1. 学生異動について 2. 研究生入学許可について 3. 公欠審議について 4. 科目等履修生について 1. 委員会報告 2. 2020年度入試関係について 3. 学生会サミット（代議員大会）について 4. 科学研究費助成事業について 5. 2019年度卒業式・2020年度入学式日程について 6. 学生異動について（報告）
2019年10月8日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 2019年9月卒業について 4. 公欠審議について 1. 委員会報告 2. 2020年度入試関係について 3. 2020年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 2020年度任期制助手の採用について 5. 2020年度副手の採用申請について 6. 2019年8月から9月の大雨により被災した学生への災害見舞金の支給について 7. 2019年度卒業式日程について 8. 文化祭について 9. 学生異動について（報告） 10. 科目等履修生について（報告）
2019年11月12日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠審議について 4. 特別留学生入学許可について 1. 委員会報告 2. 学生異動について（報告） 3. 2020年度入試について
2019年12月10日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 公欠審議について 3. 特別研究生・科目等履修生入学許可について 1. 委員会報告 2. 2020年度入試関係について 3. 学生異動について（報告）
2020年1月7日	審議事項 報告事項	1. 教員人事について 2. 学生異動について 1. 委員会報告 2. 2020年度入試関係について 3. 学生異動について（報告）
2020年2月4日	審議事項 報告事項	1. 委員会 1. 教員異動について〔正教授会（第8条教授会）報告〕 2. 委員会報告 3. 2020年度入試関係について 4. 学生異動について（報告）
2020年3月5日	審議事項 報告事項	1. 特任教員について 2. 委員会 3. 学生異動について 4. 研究生入学許可について 5. 学則変更について 6. 2019年度卒業判定について 7. 2019年度資格判定について 1. 委員会報告 2. 2020年度入試関係について 3. 2019年度卒業式・卒業記念パーティーについて 4. 2020年度入学式について 5. 学生異動について（報告）

■検討組織名：文化学園大学短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：2020 年 4 月 1 日

開催年月日		会議等の開催記録
2019 年 6 月 4 日	報告事項	1. 「キャリアデザイン導入編－フレッシュマンキャンパー」について 2. 「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」について
2019 年 7 月 23 日	報告事項	1. 2020 年度入試関係 2. 短期大学部ファッション学科の学生募集対策の経過報告 3. 社会貢献活動（キワニスドール）に関する報告 4. 「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」の進捗状況の報告
2019 年 10 月 15 日	審議事項	1. 2021 年度における文化学園大学短期大学部学生募集について
2019 年 11 月 26 日	報告事項	1. 文化祭関係について 2. キャリア形成教育科目の研修について 3. 「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」参加作品の展示について 4. 学生異動について（報告）
2020 年 1 月 21 日	報告事項	1. 在校生へ 2021 年度からの募集停止についてのお知らせについて 2. 私立短期大学図書館協議会活動報告 3. 学外展示について

本年度の課題 (2019 年度)	1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 文化学園大学学則（第 3 条・9 条・10 条・12 条・17 条・29 条各変更案、第 23 条削除案、第 34 条追加案）、文化学園大学短期大学部学則（第 3 条・8 条・10 条・15 条・30 条各変更案、第 36 条追加案）、文化学園大学教授会規程（改定案）、文化学園大学短期大学部教授会規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部非常勤講師の任期に関する規程（改定案）、他学部他学科の教科目履修に関する細則（改定案）、文化学園大学と文化学園大学短期大学部間の教科目履修に関する細則（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部の学生懲戒に関する規程（改定案）、文化学園大学編入学生規程（改定案）、文化学園大学特待生制度（一般入試 A 日程又はセンター試験利用入試（I 期））規程（改定案）、同（AO 入試（A&A 型））規程（改定案）、同（AO 入試（CG 型））規程（改定案）、文化学園大学短期大学部特待生制度（一般入試 A 日程）規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度（クリエイティブスカラシップ）規程（改定案）、同（附属高等学校推薦入試）規程（改定案）、同（外国人留学生入試）規程（改定案）、文化学園大学運営会議規程（改定案）、以上について審議・承認後、教授会に提案した。審議においては他の規程や学則との整合性を図るとともに事前回覧で寄せられた意見等を検討、必要に応じて関係部署との間で確認・修正作業を行った。【共】 2. 授業日程の調整と検討 2020 年度授業日程について、授業体制の変更や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の日程、補講日の日数等を考慮しながら審議・決定した。【共】 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し (1) 服装学部ファッションクリエイション学科、同ファッション社会学科、造形学部建築・インテリア学科、現代文化学部（国際文化学部）国際文化・観光学科、同国際ファッション文化学部、服装学部・造形学部・短期大学部総合教養科目のカリキュラム改定案について審議し承認後、教授会に提案した。審議の中で文言の確認・修正等を行った。【共】 (2) 日本語教員養成課程の廃止に伴うカリキュラムの削除について審議・承認の後、教授会に提案した。【大】 (3) 一部の教員よりオンデマンド講義を行いたいとの要望を受け、検討した結果、将来的な課題として、より具体的な実施方法の提示を求めることとした。【共】 4. 「コラボレーション科目」の検討 コラボレーション科目のあり方に関して、2019 年度は具体的な検討を行わなかった。2020 年度の授業体制において実施状況を見ながら、必要に応じて検討を行う。【共】 5. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討 単位履修に関する細則について各ブロックから意見を集め検討を行った結果、第 9 条・16 条・19 条を一部変更し、申し合せとともに教授会で報告した。また、後期の履修登録について教員にアンケートを行い、今後の検討材料の一つとした。いずれも 2020 年度の授業実施状況や他大学の動向等を見ながら、検討を継続する必要がある。【共】
次年度への課題 (2020 年度)	1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討 【共】

■検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月16日	1. 委員会名簿の確認 2. 委員会開催日程等の確認 3. 文化学園大学・同短期大学部教授会規程(改定案)の審議 4. 単位履修に関する細則の検討 5. 今年度の課題について
2019年5月21日	1. 委員会開催日程等の確認 2. 文化学園大学・同短期大学部教授会規程(改定案)の審議 3. 単位履修に関する細則の検討
2019年6月25日	1. 委員会開催日程等の決定 2. 文化学園大学・同短期大学部教授会規程(改定案)の審議 3. カリキュラム改定(総合教養科目、現代文化学部、服装学部ファッションクリエイション学科)の審議 (2 2019年7月16日教授会承認)
2019年7月23日	1. 新カリキュラムに伴う履修に関する報告(服装学部ファッション社会学科) 2. カリキュラム改定(案)修正の報告(服装学部ファッションクリエイション学科) 3. カリキュラム改定(服装学部ファッションクリエイション学科、同ファッション社会学科、造形学部建築・インテリア学科、現代文化学部国際ファッション文化学科、同国際文化・観光学科カリキュラム)の審議 4. 単位履修に関する細則の検討 5. 2020年度授業日程(案)の検討 6. 学則変更(改定案)の審議 (3 2019年10月8日教授会承認)
2019年8月7日	1. カリキュラム改定(服装学部ファッションクリエイション学科、同ファッション社会学科、現代文化学部、同国際ファッション文化学科) 2. 2020年度授業日程(案)の検討 (1 2019年10月8日教授会承認)
2019年9月24日	1. カリキュラム改定(総合教養科目、現代文化学部、同国際ファッション文化学科)の審議 2. 2020年度授業日程(案)の検討 3. 単位履修に関する細則の検討 4. オンデマンド講義について (1 2019年10月8日教授会承認)
2019年10月15日	1. 2020年度授業日程(案)の検討 2. 単位履修に関する細則の検討
2019年11月19日	1. 2020年度授業日程(案)の検討 2. 学則変更(改定案)の審議 3. 文化学園大学・同短期大学部非常勤講師の任期に関する規程(改定案)の審議 4. 他学部・他学科の教科目履修に関する細則(改定案)の審議 5. 文化学園大学と同短期大学部間の教科目履修に関する細則(改定案)の審議 6. 文化学園大学編入学規程(改定案)の審議 (1～5 2019年12月10日教授会承認)
2019年12月17日	1. 文化学園大学・同短期大学部の学生懲戒に関する規程(改定案)の審議 2. 学則変更についての審議 3. 日本語教員養成課程に関する専門科目のカリキュラムについての審議 4. 教務委員会規程委員選出母体群構成員表の検討 5. 単位履修に関する細則(改定案)の検討 (1～3 2020年2月4日教授会承認)
2020年1月21日	1. 文化学園大学編入学生規程(改定案)の審議 2. 特待生制度に関する規程(改定案)7件、文化学園大学特待生制度(一般入試A日程又はセンター試験利用入試(I期))、同(AO入試(A&A型))、同(AO入試(CG型))、同短期大学部特待生制度(一般入試A日程)、文化学園大学・同短期大学部特待生制度(クリエイティブスカラシップ)、同(附属高等学校推薦入試)、同(外国人留学生入試)の審議 3. 「学籍移動に関する細則について」の変更について(ファッション社会学科) 4. 単位履修に関する細則(改定案)の検討 5. 後期追加登録に関するアンケート(案)について (1～2 2020年2月4日教授会承認)
2020年2月18日	1. 文化学園大学学則変更、同短期大学部学則変更(改定案)の審議 2. カリキュラム改定(国際文化学部(現代文化学部)国際文化・観光学科)の審議 3. 単位履修に関する細則(改定案)の検討 4. 後期追加登録に関するアンケート(案)について 5. 2019年度自己点検・評価(教務委員会・案)について 6. 2020年履修登録・取消スケジュール(案)について (1～2 2020年3月5日教授会承認)
2020年3月2日	1. 文化学園大学・同短期大学部学則変更(改定案)の審議 2. 文化学園大学運営会議規程(改定案)の審議 3. 授業体制の変更に伴う「単位履修に関する細則」の変更及び申し合わせについての審議 4. 後期追加登録に関するアンケート(案)について 5. 2019年度自己点検・評価(教務委員会・案)について (1～3 2020年3月5日教授会承認)

本年度の課題 (2019 年度)	1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 学生生活の現状を把握できるよう、学生生活調査の結果を検討し、次の調査に向けて設問を検討する。また、学生への対応に問題がないか配慮するとともに、必要に応じ支援体制を見直す。【共】 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 学生相談室や教職員の連携を密にし、学生の心の問題、留学生へのサポート、発達障害の問題などに対する体制の具体的なサポートシステムの構築を検討する。【共】 3. 学内及び周辺の巡回と改善 学内巡回指導を通したマナー啓発の継続。また、学園全体での取り組みである「受動喫煙ゼロ」キャンパスの実現に向け、学生による啓発活動の支援や大学の専門性を生かした方策の検討。【共】 4. 各種行事内容の見直し 大学の特色を生かした行事が多いが、学生が自主的に参加、サポート、見学できるように日程を含めて調整することを検討する。【共】 5. 高等教育の修学支援新制度に伴い、学生に対する経済支援について検討する。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 (1) 2019 年度は第 18 回学生生活調査を実施し、新たな項目として「GPA を問う項目」「予習・復習・課題への取り組み時間を問う項目」「SNS の利用時間を問う項目」「奨学金についての認知度を問う項目」を追加した。調査報告を委員会で検討し、特に重要な問題もなく、今後の推移を調査したい。【共】 (2) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、留学生の渡航歴の確認、帰省の自粛、感染の危険がある場合の 14 日間の自宅待機など、数々の対策を急遽行った。【共】 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 学生相談室の相談件数が増加したが、4 月オリエンテーション時に全学生に周知したり、受付時間を増やしたりしたことが理由と考えられる。気軽に相談できる環境づくりができつつある。【共】 3. 学内及び周辺の巡回と改善 7 月 1 日施行の改正健康増進法により、学内の喫煙所を屋外 2 か所に減らし、他の施設から隔離した。受動喫煙防止対策の効果をこれから検討する。【共】 4. 各種行事内容の見直し 年間を通して、留学生行事・本学の特色を生かした行事を実施し、学生の自主的な参加を呼び掛けている。クラブ活動の参加率が年々低くなり、今後のサポートの必要性がある。【共】 5. 高等教育の修学支援新制度に伴い、学生に対する経済支援について検討する。 新たな給付奨学金制度の実施に伴い、在学生を対象に 10 月下旬に説明会を開催し、全学生の 4% にあたる希望者があった。手続きを経て来年度から支給を実施する。【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 感染症の拡大が予想されるため、緊急に日本人学生を含む留学生の健康管理を支援する体制を検討する。【共】 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 学生生活支援室の活用をさらに周知し、学生の心の問題、留学生へのサポート、発達障害の問題の早期発見・対策を進める。【共】 3. 学内及び周辺の巡回と改善 「受動喫煙ゼロ」をめざし、継続して喫煙所の整備と学生への啓発活動を実施する。【共】 4. 新たな給付奨学金の施行を継続して実態調査し、学生に対する経済支援について検討する。【共】

■検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月23日	1. 年間活動方針と行事予定 2. 学生相談室報告 3. 総合学生生活委員会報告
2019年5月14日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金選考について 2. 緑道・学内巡回指導について 3. 新入留学生懇談会について 4. 学生相談室報告 5. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 6. 留学生の進路情報について
2019年6月11日	1. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 2. 緑道・学内巡回指導報告 3. 健康診断結果報告 4. 学生相談室報告 5. 留学生の進路情報について 6. 新入留学生懇談会について
2019年7月23日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金について 2. 新入留学生懇談会結果報告 3. 私費外国人留学生授業料減免について 4. 第18回学生生活調査について 5. 学生相談室報告 6. 総合学生生活委員会報告 7. クラブ部員数について
2019年9月17日	1. 学内巡回指導について（文化祭期間中） 2. 第18回学生生活調査について 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. 喫煙所について
2019年10月29日	1. 学内巡回指導について（文化祭期間中） 2. 緑道・学内巡回指導について 3. 新たな給付奨学金・授業料等減免について 4. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 5. 学生相談室報告 6. 総合学生生活委員会報告 7. 日本学生支援機構奨学生数について
2019年12月3日	1. 新たな給付奨学金・授業料等減免について 2. 私費外国人留学生授業料減免について 3. リーダーズトレーニングについて 4. 第18回学生生活調査について 5. 2019年度自己点検・評価報告書について 6. 学生相談室報告
2020年1月21日	1. 緑道・学内巡回指導報告 2. リーダーズトレーニングについて 3. 第18回学生生活調査について 4. 学生生活支援室報告 5. 新型コロナウイルス感染症について
2020年2月25日	1. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 2. 2019年度自己点検・評価報告書について 3. 学生生活支援室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. 新型コロナウイルス感染症における対応について

■検討組織名：入試対策委員会

報告者：高橋 正樹

提出日：2020 年 3 月 27 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 2019 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 2020 年度オープンキャンパスのあり方の検討 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. オープンキャンパスを 6 回開催した（文化祭及び進学相談会 3 回を除く）。キャンパス統合に合わせ、全学で統一した新プログラムに移行して 5 年目となった。実施内容は、大学の全体像を把握した上で各学部学科の特徴を理解できるような工夫を行った。また学科説明会では各学科教員による 3 つのポリシー及びカリキュラム内容の説明に加え、学生による学科での学びのプレゼンテーション、受験体験談を行い、受験生の目線で教育内容と学生生活の実態が見えるように充実を図った。その他、教員による「プレゼンテーション・面接対策講座」を行い、プレゼンテーションや面接に際しての基本的な作法から自己アピールの仕方等まで丁寧なレクチャーを行い、好評を博した。結果、総来場者数は増加し、前年度比で 9.8%増であった。「授業公開」では、オープンキャンパスの一環として、実際の授業体験を通して本学での学びの雰囲気を理解してもらうことを目的に 7 月 20 日に実施した。結果、前年度比で 7%増であった。授業公開の形式や時間配分などについては委員会において議論を行い、できるだけ多くの授業を見学できるよう配慮した。一方で教員の絶対数が少なく、授業を行っている関係上、来場者となる高校生や保護者への丁寧な対応ができないというケースや、逆に対応に追われてしまい、授業を受ける立場の学生への対応が疎かになってしまいそうだという意見も出された。サマーオープンカレッジは 8 月 1 日～3 日の 3 日間で実施された。結果、受講者数は前年度比で 0.3%の微増であった。参加者のアンケートからみると概ね好評であった。毎年問題となる欠席率については前年度比で 4.3%増であった。高校生にとって大学での学びを意識できるような魅力的な講座内容であること、わかり易いパンフレットや Web 画面上の構成等、入学志願者の獲得につながる工夫を行う必要がある。また、2020 年度から始まる新しい授業日程等を鑑み、サマーオープンカレッジの開催日を 2 日間へ変更することを決めた。 2. 2012 年度より全学的に高校訪問を実施している。結果、一都三県を中心に講師以上の専任教員が 1 人あたり 2～3 校を訪問した。訪問後に教員等の訪問者が書いた報告書を参考に、委員会で今後の高校訪問のあり方について検討した。その結果、問題点としては授業期間中の実施であることから教員の負担が大きいこと、実施の効果が目に見えず、有効性に疑問を感じる等の意見が出された。その結果、今後もより効率的で効果的・戦略的な高校訪問について検討を続けること、さらに訪問数については、来年度から教員 1 人あたり 1 校以上とすることに決定した。 3. 各学科の入学後の教育内容に関連する入学事前教育プログラムを実施している。結果、殆どの学科においてプログラムの開始時と終了時を比較すると基礎学力の向上等がみられた。 4. 2019 年度オープンキャンパスの実施内容を踏まえ、入学志願者の増加へつなげる工夫について検討を行った。結果、学生スタッフ等在学生の直接的な参加が効果的であることを確認した。また、新しい入試制度への移行（入試選抜時期の変更等）を踏まえ、オープンキャンパス実施予定日の変更を決めた。 【共】
次年度への課題 (2020 年度)	1. 2020 年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 2021 年度オープンキャンパスのあり方の検討 【共】

■検討組織名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月23日	1. オープンキャンパスについて（開催毎の内容確認） 2. 高校訪問について（訪問校リスト、持参資料等）
2019年5月14日	1. 高校訪問について（訪問校数の報告） 2. 入学事前教育プログラムについて（2019年度 入学者の受講結果報告と2020年度入学者向け内容確認） 3. 進学相談会について（3月実施回のアンケート結果報告）
2019年6月25日	1. オープンキャンパスについて（5月実施回のアンケート結果報告・6月実施回の状況報告） 2. 授業公開について（開講授業の確認等） 3. 2020年度入学事前教育プログラムについて（各学科の実施内容の決定）
2019年7月30日	1. 授業公開について（状況報告） 2. サマーオープンカレッジについて（申込み状況の報告等） 3. 2020年度入学事前教育プログラムについて 4. オープンキャンパスについて（6月実施回のアンケート結果報告）
2019年9月24日	1. AO入試（1期・A&A型・CG型）について（結果報告、次年度への検討） 2. オープンキャンパスについて（7月実施回のアンケート結果報告・8月実施回の状況報告） 3. サマーオープンカレッジについて（出席状況・アンケート結果報告） 4. 高校訪問について（実施結果報告、意見交換） 5. 2020年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジについて（開催日程の検討）
2019年10月29日	1. オープンキャンパスについて（8月実施回のアンケート結果報告・9月実施回の状況報告） 2. 進学相談会について（12月実施回の内容確認） 3. 高校訪問について（問題点の確認次年度への検討・改善）
2019年11月19日	1. AO入試2期、推薦入試、留学生入試1期について（報告） 2. オープンキャンパスについて（9月実施回のアンケート結果報告） 3. 高校訪問について（問題点の確認、次年度への検討・改善）
2019年12月17日	1. 進学相談会について（12月実施回の状況報告、2月実施回の内容確認） 2. 2020年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジについて（開催日程の決定） 3. 2020年度高校訪問について（実施方法の確認） 4. 2021年度入学試験について（英語民間試験及び記述式問題導入の見送りに係わる変更点の説明）
2020年1月21日	1. 2020年度オープンキャンパスについて（前年度からの変更点の確認） 2. 進学相談会について（12月実施回のアンケート結果報告） 3. 2020年度高校訪問について（実施方法の確認） 4. 学校見学会について（報告等）
2020年2月25日	1. 入学事前教育プログラムについて（申込み状況の報告等） 2. 2020年度オープンキャンパスについて（実施内容の報告・確認） 3. 2020年度サマーオープンカレッジについて（開講講座の確認等）
2020年3月23日	1. 2020年4月開催オープンキャンパスの中止について 2. 2020年度サマーオープンカレッジの日程変更について 3. 2020年度文化祭時の個別進学相談について（問題提起・意見収集）

本年度の課題 (2019年度)	1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①事前教育の徹底を継続する。②事前事後教育の日程と期間の検討を継続する。③コース単位報告会を年間スケジュールに入れやすい日程・時間の検討を行う。④インターンシップ参加者の減少に伴う解決策について検討する。【学】 2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①担任・副担任と連携し就職活動に消極的な学生支援強化に取り組む。②就職講座出席向上へ次の取り組みを行う。[1] 早期化を踏まえ前期にインターンシップに伴うプレエントリーシートの実施。[2] スキル習得が必須と思われる講座は各教員がより積極的に学生の誘導を行う工夫をする。[3] 担任・副担任へメール、学生へGmail、実習室に掲示、個人面談での出席促し、講座内容見直し等を検討する。③男子及び留学生向け企業開拓と支援の検討及び専門分野に特化した企業開拓の実施。④卒業後の起業支援について検討する。⑤就職講座単位化の可否について検討する。【共】 (2) キャリア支援 ①学部はキャリア形成教育科目との連携で、企業見学や企業講師による講話の取り入れを検討する。短期大学部は企業見学実施を継続する。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①事前教育の徹底で大きなトラブルはなかった。②運用に問題はなかった。今後は3学部共有を検討する。造形学部は履修取消に不具合あり。③スケジュールに問題なく実施でき、分かり易い報告会となった。④履修取消者が多く減少傾向に課題を残したが次年度はスケジュールの前倒しで解消されたと考える。積極的な学外インターンシップ参加促進も検討する。【学】 2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①学部：担任・副担任と連携し学生支援強化に取り組んだ。短期大学部：担任・副担任が講座に出席し学生把握を行うも多少の減少傾向が見られた。②[1] 予定通り前期に実施。今後も継続する。[2] 委員を中心に各教員が積極的に学生の誘導を行なった。[3] 関係各所へメール、Gmail を配信し周知を徹底。就職講座は申込制を導入し学生の参加意識を高めたが、就職環境良好により大きな向上は見られなかった。講座のネーミングと開講時期を実態に合わせる等の変更も試みた。③④就職環境良好の実態から今後は将来を見据えての取り組みが必要。⑤就職希望でない学生への対応で難しい面がある。以上のいずれも検討を継続する。【共】 (2) キャリア支援 ①学部：キャリア形成教育科目との連携で、企業見学や企業講師による講話の取り入れを実施した。短期大学部：企業見学実施の継続と担任・副担任がキャリア形成教育科目を担当し強化を図った。【共】
次年度への 課題 (2020年度)	1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①事前教育徹底の継続。②3学部共通事前事後教育の日程と期間の検討。③コース単位報告会の年間スケジュールに入れやすい日程・時間の検討。④参加者減少に伴う解決策の検討。⑤参加者増加のための公開報告会実施内容の検討。【学】 2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①就職活動に消極的な学生支援強化への担任・副担任との連携。②就職講座申込制継続による計画的な参加意識の向上。③スキル習得必須と思われる講座等の教員による積極的な学生誘導の工夫。④情報周知方法徹底と見直し（メール、掲示、内容等）。③専門分野特化の企業開拓。④就職講座単位化可否の検討継続。⑥学内合同企業セミナー実施時期の検討。【共】 (2) キャリア支援 ①学部：キャリア形成教育科目との連携による企業見学や企業講師の講話取り入れの検討。短期大学部：企業見学実施の継続。②進路調査WEB実施導入の検討。③3年以内卒業生の動向把握（紫友会との連携、Gmail アドレスの半永久的な使用）の検討。【共】

■検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 4 月 17 日	1. 就職状況及び学生の活動状況について 2. その他(次年度活動計画、個人面談及び就職講座出席率、次年度就職講座申込制、インターンシップ報告書・次年度履修、求人のご案内、就職ノート)
2019 年 5 月 21 日	1. 各小委員会活動報告(就職委員会活動計画、インターンシップ) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(進路調査、文部科学省報道発表(大学等卒業者及び高校卒業者の就職状況調査)並びに「中間とりまとめと共同提言-概要-」、インターンシップ)
2019 年 6 月 25 日	1. 各小委員会の活動報告(就職講座、インターンシップ、進路状況) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(就職委員会活動計画、Society5.0時代の大学教育と採用のあり方に関するシンポジウム、6月1日時点の就職活動調査)
2019 年 7 月 30 日	1. 各小委員会の活動報告(インターンシップ GPA 表記、中小企業見学バスツアー、就職講座申込、企業見学、進路状況) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(有給インターンシップ、卒業生求人、本学のエントリー状況・インターンシップエントリーランキング資料、業界 MAP)
2019 年 10 月 1 日	1. 各小委員会の活動報告(学生内定状況、職種コード) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(進路調査方法、キャンパスプラン Web 就職登録ガイダンス、2019 年度インターンシップ報告・検討事項、アパレル展示会見学、ファクトリーブランド開発支援事業)
2019 年 11 月 19 日	1. 各小委員会の活動報告(進路調査状、インターンシップ履修取消・公開報告会参加者) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(2019 年度インターンシップ研修企業一覧・実施における報告及び検討事項、令和元年度大学等卒業予定者の就職内定状況、2021 年度卒業・修了予定者の就職・採用活動に関する日程等)
2020 年 1 月 21 日	1. 各小委員会の活動報告(学内合同企業セミナー日程、企業訪問、インターンシップ履修取消、学部3年生内定状況、企業見学) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(令和元年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査、インターンシップ3学部統一表記、2019 年度自己点検・評価報告書)
2020 年 2 月 25 日	1. 各小委員会の活動報告(2019 年度自己点検・評価報告書、建築・インテリア系企業セミナー、就職講座予約制継続) 2. 就職状況及び学生の活動状況について(学内合同企業セミナー中止) 3. その他(インターンシップを取り巻く課題認識と学修経験時間の尊重に向けた取り組み、2019 年度自己点検・評価報告書、卒業3年以内離職者把握)

本年度の課題 (2019 年度)	1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 (1) 研究活動の活性化に向けた研究関連予算のあり方に関する検討 (2) 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制のあり方に関する検討 2. 教員の研究成果の発信に関する課題 (1) 本学の研究内容や特色を広く示す役割を果たす教員研究作品展及び紀要に関する検討 (2) その他研究成果の発信方法に関する検討 3. 研究倫理に関する検討 (1) 紀要の投稿及び学外共同研究等における研究倫理に関する事項の確認について検討 (2) 研究倫理委員会との連携を検討 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 (1) 教員の研究活動に対してより効果的な支援となるような研究室図書費の予算配分・運用について、研究促進の予算に転用することを前提とした検討を行った。 (2) 研究室図書費の重点配分の予算を競争的外部資金の獲得に向けた支援体制にあててを前提とした検討を行った。 (1)、(2)については委員会で内容をまとめて学部長会にて提案した。引き続き検討することとなった。 2. 教員の研究成果の発信に関する課題 (1) 紀要、教員研究作品展作品集の Web 化を決定した。「教員研究・作品紹介」としたウィンドウ展示を新たに設けた。 (2) ・2019 年 6 月 7 日～9 日の 3 日間、「第 34 回教員研究作品展」を、スペース 21(C 館 20 階)とホワイエ(A 館 20 階)で開催した。出展作品数は 43 点と 2018 年度(45 点)と比較して微減、来場者数は 1129 人で昨年比-119 人となった。 ・紀要第 51 集は、投稿数が 15 件(研究論文 6 件、研究ノート 7 件、作品ノート 1 件、文献・資料紹介 1 件)となり 2018 年度の 16 件から微減した。本学の特色である研究領域を網羅した紀要となるべく、投稿説明会を行い、単に投稿を促すだけでなく、ガイドラインについて理解を深める機会を作った。 ・制作・表現系統の研究の充実と発表の場の拡大を目指し、ウィンドウ展示「教員研究・作品紹介」を行った。 3. 研究倫理に関する検討 紀要の投稿の際、チェックリストの提出を義務付け、必要に応じて研究倫理審査を受けているかを確認、また学外共同研究等においても同様に申請書にチェック項目を設け確認し、研究倫理委員会への連絡を行い、連携を図った。 【共】
次年度への 課題 (2020 年度)	1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 (1) 研究活動の活性化に向けた研究関連のあり方に関する検討 (2) 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制のあり方に関する検討 2. 教員の研究成果の発信に関する課題 (1) 本学の研究内容や特色を広く示す役割を果たす教員研究作品展及び紀要に関する検討 (2) その他研究成果の発信方法に関する検討 【共】

■検討組織名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 4 月 16 日	1. 2019 年度（第 34 回）教員研究作品展の準備に係る検討（設営等について） 2. 紀要第 51 集の準備に係る検討（スケジュール等） 3. 2020 年度以降の紀要・教員研究作品展の編集について 4. 研究を活性化するための具体的な方策についての検討（ウィンドウ展示について） 5. 学外共同研究の 1 件の審議（2019 年 5 月 28 日教授会承認）
2019 年 5 月 29 日	1. 2019 年度（第 34 回）教員研究作品展の準備に係る検討（当日の運営について） 2. 2019 年度研究室図書費に係る審議（配分額の承認）（2019 年 6 月 18 日教授会報告） 3. 今後の研究室図書費の予算配分及び運用についての検討 4. 紀要第 51 集の編集に係る検討（説明会等について） 5. 2020 年度以降の紀要・教員研究作品展の編集方法について 6. 学外共同研究の 2 件の審議（1 件はメール審議）（2019 年 6 月 18 日教授会承認）
2019 年 7 月 9 日	1. 2019 年度研究室図書費（重点配分）に係る報告（申請状況） 2. 今後の研究室図書費の予算配分及び運用についての検討 3. 2019 年度（第 34 回）教員研究作品展に係る報告（来場者数、改善点等） 4. 紀要第 51 集の編集に係る検討（説明会・投稿方法等） 5. 2020 年度以降の紀要・教員研究作品展の編集方法について 6. 学外共同研究の 3 件の審議（1 件はメール審議）（2019 年 7 月 16 日教授会承認）
2019 年 9 月 12 日	1. 2019 年度研究室図書費（重点配分）に係る報告（申請状況） 2. 教員研究作品展作品集第 16 集にかかる検討（配布数について） 3. 紀要第 51 集の編集に係る検討（登録状況・査読等について） 4. 研究を活性化するための具体的な方策について（学部長会の結果報告/研究室図書の運用、紀要及び教員研究作品展の Web 化、ウィンドウ展示等）
2019 年 10 月 29 日	1. 教員研究作品展作品集第 16 集に係る報告（進捗状況・2020 年度の Web 化について） 2. 紀要第 51 集の編集に係る検討（投稿者数の確認・2020 年度の査読制度について等） 3. 研究を活性化するための具体的な方策についての検討（ウィンドウ展示について）
2019 年 12 月 17 日	1. 2019 年度研究室図書費（重点配分）に係る報告（購入状況） 2. 教員研究作品展作品集第 16 集に係る報告（進捗状況・2020 年度の Web 化について） 3. 2020 年度（第 35 回）教員研究作品展の準備に係る検討（日程・場所・作品の写真撮影について等） 4. 紀要第 51 集の編集に係る検討（印刷業者の選定・2020 年度の査読制度についての検討） 5. 研究を活性化するための具体的な方策についての検討（ウィンドウ展示について）
2020 年 2 月 19 日	1. 教員研究作品展作品集第 16 集に係る報告（進捗状況について） 2. 紀要第 51 集の編集に係る検討（配布日程等の確認） 3. 2020 年度（第 35 回）教員研究作品展の準備に係る検討（登録について等） 4. 研究を活性化するための具体的な方策についての検討（ウィンドウ展示のアンケート・AD 画廊の展示について等）

■検討組織名： 研究倫理委員会

報告者：米山 雄二

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 継続して研究倫理啓発を進めていく 2. 学術研究・論文の計画段階で研究倫理審査の必要性を検討することを推奨する 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 教員向けに研究倫理啓発の講演会を開催し、また大学院オリエンテーションや科研費等の外部競争資金による研究申請及び使用時の説明会にて、研究倫理に関するガイドラインの周知に努めた。 2. 研究時における倫理意識の向上、及び学術論文公表における事前の研究倫理審査の必要性の認識が浸透し、研究倫理審査に申請してくる研究分野が広がった。2019 年度の研究倫理申請の審査件数は 計 15 件であった。 【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 研究倫理啓発を継続して進めていく 2. 卒業研究及び修士研究の計画時における研究倫理のチェックシステムの構築 【共】

開催年月日	講演会等の開催記録
2019 年 7 月 16 日	助手を含む全教員を対象に、研究倫理啓発のための講演会を開催した テーマ：研究倫理啓発のために（５） 講演者：造形学部長 講演時間：30 分

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 7 月 23 日	1. 研究倫理の審査申請 1 件について審議し、定期健康診断時に調査データを取得することは事実上強制的な調査となり、またプライバシー等の権利侵害の懸念があることから不承認とした。
2020 年 3 月 6 日	1. 2019 年度における研究倫理審査の結果及び振り返り、2. 2020 年度の研究倫理啓発のための講演会及び大学院生向けの教育計画、以上 2 件について協議した。卒業研究等の学生の研究における研究倫理のチェックについて意見が出た。

■検討組織名：研究活動不正防止委員会

報告者：米山 雄二

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 2019 年度も引き続き不正防止対策を実施する。 2. 各研究機関で実施する公正な研究活動の推進に関する取組への文部科学省等の支援について (周知) 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 不正防止対策として、研究活動不正防止への教育を以下 4 項目実施した。 (1) 大学院生を対象にした研究倫理教育, (2) 教員を対象にしたコンプライアンス研修会, (3) 教員を対象にした研究倫理研修会, (4) 科研費応募への説明会 これらの教育により、研究活動における不正行為及び注意点について理解を深めた。 2. 公正な研究活動の推進に関する取組として、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、特定不正行為の疑惑が生じた際の研究公正委員会及び文部科学省並びに競争的資金の配分機関への報告の期限を明確にするため、「文化学園大学・文化学園大学短期大学部研究活動の不正防止及び公正性の確保に関する規程」第 13 条及び第 22 条を改定し、学内の周知を図った。(2019 年 11 月 12 日教授会報告・大学 HP 更新) 3. 研究活動不正防止委員会を開催し、研究活動不正防止計画に基づく取り組みの実施状況（研究倫理教育・研修、コンプライアンス研修、内部監査、誓約書の徴取など）を報告し、活動の振り返りを行った。また、科学研究費助成事業に携わるアルバイト従事者についても同様に問題がないことを確認した。 【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 2020 年度も引き続き不正防止対策を実施する。 2. 研究活動における不正防止と研究活動の推進を調和させた研究費の使用・承認プロセスの見直し 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 4 月 9 日	1. 大学院生を対象とした研究倫理教育を実施した (1) 意義ある研究活動, (2) 研究倫理の必要性, (3) 研究を取り巻く話題（不正行為・研究費不正使用等）, (4) 研究倫理を身につけるための具体的方法（実験ノート、調査ノートの取り方等）, (5) 不正行為とは
2019 年 6 月 18 日	1. 助手以上の全教員を対象にコンプライアンス研修会を実施した (1) コンプライアンス教育, (2) コンプライアンスの重要性, (3) 具体的にとるべき行動（行動指針：法令・規範の遵守、大学資産等の適切な管理等）
2019 年 7 月 16 日	1. 助手以上の全教員を対象に研究倫理研修会を実施した (1) 研究倫理とは, (2) 本学における研究活動, (3) 研究不正行為の種類, (4) 本学における研究倫理の審査方法
2019 年 7 月 30 日～ 9 月 5 日	1. 競争的資金の使用法に関する説明会を計 7 回実施した
2019 年 10 月～ 11 月上旬	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部研究活動の不正防止及び公正性の確保に関する規程の改定について検討し、改定内容を 11 月 12 日教授会にて周知した。
2020 年 3 月 6 日	1. 研究活動不正防止委員会を開催し、下記の 2 件の報告と次年度の取り組みを協議した。 (1) 2019 年度不正防止計画の実施状況, (2) 不正行為防止への取り組みの継続

■検討組織名： 公開講座実行委員会

報告者：安高 信一

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討【共】 2. 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すような特別公開講座のあり方に関する検討【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討 特別公開講座の果たすべき役割に鑑み、2019 年度は本学の附属機関である文化学園服飾博物館の企画展とテーマを合わせた講演会を企画した。博物館展示と併せてご覧いただくことで、本学独自の研究成果とリソース双方に触れていただき、相乗効果により、本学への理解を深める機会と捉え、テーマの設定及び講演者を決定した。2020 年 1 月 29 日、2019 年度特別公開講座「1 枚の布が織り成す立体表現ーひだ（プリーツ、ギャザー、シャーリング、タック、フリル）の技法を用いた作品づくりから……（講師：本学服装学部部長）」を開催した。地域への広報として、渋谷区との協定（S-SAP）により、渋谷区広報にも協力を得て大学の知の開放をアピールすることができた。 【共】 2. 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すような特別公開講座のあり方に関する検討 本年度の公開講座では、受講者の参加を促し、研究上の成果とリソースに触れてもらう機会として本学の附属機関である文化学園服飾博物館に協力を仰ぎ、企画展のテーマと合わせた講演者を選定した。併せて、講演会前後に受講者が無料で博物館展示を観覧できる機会を作り、学外参加者の約 85%の方にご覧いただくことができた。また、学外広報として講演テーマに近いテキスト関係の企業等にお知らせすることで、これまで参加経験のない方にも受講していただくことができた。アンケートの結果（回収数 131 部）から、講座の内容について記入者全体の約 50%が「満足」、約 21%が「やや満足」と評価していたことから、講座への満足度は高かったと考えられる。参加者の年代別に見ると、2018 年度より 10 代、20 代、30 代、40 代の参加割合が増えており、2018 年度の課題であった若い世代の参加促進はなされたが、アンケート記入者に本学教職員、学生も含まれているため、一般参加者中のこれらの世代の割合は明らかでなく、学外者の参加内訳の把握について課題が残った。【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討【共】 2. 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すような特別公開講座の広報に関する検討【共】

■検討組織名：公開講座実行委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 5 月 14 日	1. 2019 年度文化学園大学特別公開講座のテーマ及び講演者選出について協議 2. 特別公開講座の開催時期の検討
2019 年 6 月 12 日	1. 2019 年度文化学園大学特別公開講座の講演候補者選出について検討 2. 今後のスケジュールについて協議
2019 年 7 月 10 日	1. 特別公開講座の講演候補者及び講座開催日について協議、決定 2. 附属機関である文化学園服飾博物館企画展との連携について協議
2019 年 9 月 24 日	1. 特別公開講座の広報について協議 2. 文化学園服飾博物館企画展との具体的な連携方法について協議 3. 事前及び当日の各委員の役割分担について協議、決定
2019 年 10 月 23 日	1. 各役割担当による進捗状況報告 2. 特別公開講座広報媒体及び広報先について協議 3. 公開講座参加者名簿の整理について検討
2019 年 11 月 20 日	1. 各役割担当による進捗状況報告 2. 特別公開講座の広報物の内容確認と経費について協議 3. アンケート内容について項目等検討の依頼
2020 年 1 月 15 日	1. 各役割担当による進捗状況報告 2. 公開講座当日までの準備内容の確認 3. アンケート内容について協議、決定
2020 年 3 月 9 日	1. 次回に向けた各役割担当による検討事項の報告及び確認 2. 次年度への課題の確認 3. 各役割担当に未作成分の報告書、記録作成の依頼
2020 年 3 月 13 日	1. 「2019 年度 自己点検・評価報告書」の内容確認

■検討組織名： ハラスメント防止委員会

報告者：石田 名都子

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. メンバー交替を受けて、今後の委員会のありかたについて検討する。 2. 「申し送り事項」に示された方針に従って、10 年以上が経過した取扱事案の記録の破棄を実施する。 3. 「学生生活調査」の実施年に当たり、学生アンケートの内容を精査する。 4. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓発をはかり、あわせてその方法について検討する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. メンバー交替を受けて今後の委員会のありかたを検討し、前年度の方針を踏襲することとした。 2. 本委員会の取扱事案で 10 年を経過した資料等の書類は、「申し送り事項」に示された方針通りに破棄した。 3. 委員会で「学生生活調査」の学生アンケートの内容を精査した。今回のアンケートの結果からハラスメント相談員の存在を知らない学生が 80%以上いることが判明したため、クラス担任・副担任、学生生活支援室等を通じて、周知に努めることとした。 4. 後期にハラスメント防止研修会が、学園全体の指導的・管理者の立場にある教員、課長補佐以上の管理職を対象に行われた。また、新任の非常勤講師の先生には本学のハラスメント防止に対応するガイドラインの送付とともにハラスメント防止への協力を依頼した。 5. 2019 年度に本委員が受けたハラスメント事案は 1 件であった。 <点検評価> 2019 年度に課題として設定した事項はおおむね達成することができた。特に学園全体の管理者の立場にある教員、課長補佐以上の管理職を対象としたハラスメント防止研修会を受講することができた。今年度のハラスメント事案 1 件については、訴えに基づきハラスメントのフローチャートに則り調査小委員会を設置し、聞き取り調査を行った。 【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 「申し送り事項」に示された方針に従って、10 年以上が経過した取り扱い事案の記録の破棄を実施する。 2. 2020 年度の委員会のあり方について検討する。 3. ハラスメント相談員の存在について学生へ周知する方法をさらに検討する。 4. 教職員全体に対して、ハラスメント防止への意識啓発を図る方法を検討する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 4 月 5 日	リーフレット「NO Harassment!」の配布 1. 全新生にリーフレットを配布 2. 新任の全非常勤講師にリーフレットとともにハラスメント防止への協力要請文を送付
2019 年 4 月～5 月	・2009 年度取扱事案の書類を廃棄した。
2020 年 2 月 3 日	・ハラスメント相談員にハラスメントの訴えがあった。ハラスメント防止委員会委員長と委員が訴訟人に対して内容についての確認を行った。
2020 年 2 月 7 日	・ハラスメントの訴えによりハラスメント防止委員会は、ハラスメント対応のフローチャートに従い調査小委員会を立ち上げた。
2020 年 2 月 17 日	・第 1 回調査小委員会（聞き取り調査の実施）
2020 年 2 月 19 日	・第 2 回調査小委員会（聞き取り調査の実施）
2020 年 2 月 20 日	・第 3 回調査小委員会（聞き取り調査の実施）
2020 年 2 月 21 日	・第 4 回調査小委員会（聞き取り調査の実施）
2020 年 2 月 25 日	・調査小委員会からハラスメント防止委員会委員長に聞き取り調査の結果を報告した。 ・ハラスメント防止委員会委員長より、調査小委員会の聞き取り調査結果について訴訟人と保証人に報告した。
2020 年 3 月 2 日	・ハラスメント防止研修会受講 文化学園主催の学園全体の指導的・管理者の立場にある教員、課長補佐以上の管理職を対象とした研修会を受講した。
2020 年 3 月 3 日	1. 本委員会のありかたについての検討 2. 2009 年の取り扱い事案の書類廃棄について 3. 「学生生活調査」の学生アンケート内容について精査する。 4. 2020 年度の教職員全体に対してのハラスメント防止への意識啓発を図る方法について
2020 年 3 月 6 日	1. Web 会議 2019 年度「自己点検・評価報告書」の内容確認

■検討組織名： 障害学生支援委員会

報告者：佐藤 浩信

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 規程に基づく障害学生への継続的な支援活動。 2. 文部科学省の通達を踏まえたより実効性のある障害学生支援の在り方の検討。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 2019 年度の要支援学生に対し、継続的な支援が行われているか確認のうえ、学生の自立を目指した規程に基づく合理的配慮及び実施されている支援内容についての確認を行った。結果、2018 年度の方針に基づく継続支援が行われ、概ね順調に修学し学年末を迎えている。引き続き、規程に基づく支援を継続的に実施し、要支援学生の修学のための本質的かつ具体的な支援を充実させ、当該学生の自立及び成長を促すことに努めた支援を行っていくこととした。 2. 障害学生支援についての基本的な考え方を理解するために、日本学生支援機構が主催する障害学生支援実務者養成研修会に委員長が参加した。これは 2018 年に施行された「東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」に基づき、支援の意義と公平性を確保した合理的配慮に関する標準的な考え方を獲得し理解を深めることに繋がった。また、2019 年度中に行われた学園の組織変更に基づく全学的な学生支援への整備が図られたことから、それに合わせた委員会規程及び障害学生支援規程の改定について検討を開始した。要支援学生への個別支援については、学園学生生活支援室との連携を深めながら、実施される個別支援の現状の把握と承認、卒業後必要とされる社会的支援についての情報提供、今後配置が予定されている障害学生支援コーディネーター等の実務者との連携など、インクルーシブ教育として様々な情報の共有が必要であることを確認した。同時に、学生生活支援室長より 2019 年度内に行われた個別支援事例を紹介頂き、短期的課題及び卒業後を含めた中長期的課題について共有した。支援に対する基本的な視点についても確認し、傷病または障害に関する確定診断の有無にかかわらず、教育的観点から合理的配慮に基づく修学上必要とされる支援を提供し、状況に応じた建設的な支援を行っていくことを確認した。なお、支援環境の充実と整備にも意識を置き、ピアヘルパー資格を有する学生による学生同士の日常的な支援活動にも対応できるよう有資格者の増員に向けた周知と支援意識の啓発を行い、長期的な支援環境の整備と意識の向上に努めた。 【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 規程に基づく障害学生への継続的な支援活動。 2. 文部科学省の通達を踏まえた、より実効性のある障害学生支援の在り方の検討。 3. 関連部署との有機的な連携。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2020 年 3 月 9 日	1. 2019 年度の支援学生の状況(報告) 2. 大学支援規程及び委員会規程の改定案について 3. 2020 年度の取り組みについて 4. その他(確認事項) 【共】

本年度の課題 (2019 年度)	1. テキスタイルアドバイザー(以下「TA」)実習について (1)実習学年を3年次にすることで、春季は、補講、後期期末試験、学内集中授業、就職活動等と重なるため、実習先機関との対応を含めて、実習期間の調整が必要である。 2. カリキュラムについて (1)新カリキュラムが進行中であり、指定科目や時間割の確認及び見直しが必要である。 (2)「ケーススタディ」の担当教員が2019年度で退職となるため、認定教員の選定が必要である。 3. 資格取得者減について (1)社会のニーズに応じた資格の重要性を、理解させるための教育を行う。【大】
取組の結果と 点検・評価	1. TA 実習について (1)2019年度の実習は、夏季(8、9月)及び春季(2、3月)において、13の機関にて25人(3年次生：24人、4年次生：1人)の学生が実習を行った。実習先との綿密な対応により、夏季の実習人数を増やし春季の人数を減らす調整を行った。夏季実習を希望した学生については、全員実施することが可能であった。春季実習は、学内集中授業ではあったが、担当教員了承のもと5日間の実習を実施した。春季のみ受け入れの実習先や夏季にインターンを申し込んでいる学生がいることから、春季のTA実習も必要であるため、今後も学校行事と実習先との日程を調整し実施する。3年次での実習は、現場を早期に経験することで、大学で学んだ知識の必要性を実感しTA取得の意義が明らかとなり、就職への視野も広がることから、3年次への移行は適切であったと考える。 2. カリキュラムについて (1)新カリキュラムに移行中であり、全学生が資格取得できるよう時間割の調整を行った。 (2)「繊維製品の品質と消費者」(旧科目名：「ケーススタディ」)は、新カリキュラム見直しにより2020年度入学生から削除科目となることが決定し、後2年間の開講であることから、特例として担当教員の継続を願い出た。 (3)2020年度生より「テキスタイルデザインⅠ」「コンピュータグラフィックⅠ」を指定科目とするため、講義内容と担当教員の審査を日本衣料管理協会に依頼し、認定を得た。 3. 資格取得者減について (1)本年度は定員40人に対して、資格申請を行ったのは34人であった。現在、旧カリキュラムであり、コースによっては資格取得が難しいカリキュラムや時間割になっていることで、3・4年での取り消しが多い。新カリキュラムでは解消できると考える。また、衣料管理士と社会との関わり方について十分な理解が得られていないことも要因であると考え、日本衣料管理協会の「TA交流プロジェクト」を利用し、TAの魅力や繊維・ファッション業界との関わりについての講義を依頼し、社会のニーズに応じた資格の重要性を理解させるための教育を行った。現場の話を聞くことで、よりTAの魅力や意義を理解させることができたと思われる。今後も繰り返し説明することでTAを意識させ、資格取得者増に繋げていきたい。【大】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. カリキュラムについて (1)新カリキュラムの指定科目や時間割が、取得に不都合が生じていないかを随時確認する。 (2)指定科目が変更となる科目について、認定が得られるよう担当教員と打合せを行い進める。 2. TA 資格の魅力と取得の意義を認識させる (1)衣料管理士と社会との関わり方の重要性を理解させ、取得者減の対策を講ずる。【大】

■検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月3日	1. 2019年度衣料管理士課程専門委員、役割分担について 2. 自己点検・評価報告書の提出について 3. オリエンテーション「衣料管理士資格に関するガイダンス」について 4. 「TA実習」授業内容の確認・外部講師の検討 5. 2020年度からのTA資格科目の検討
2019年5月28日	1. 2019年度正会員申請書について 2. TA資格取得希望の3年生について 3. TA実習について 4. 日本衣料管理協会「TA交流プロジェクト」実施について 5. 新カリキュラムの申請について
2019年6月24日	1. 2019年度TA実習先の割り振り 2. TA協会年次報告書の確認 3. 2020年度TA取得の学生（2年生）への喚起計画
2019年7月17日	1. 学生の実習先の確認 2. 実習先への挨拶担当教員決め
2019年9月18日	1. TA実習先挨拶担当者からの報告（2020年度の実習時期、実習人数等） 2. 「TA実習」評価表について 3. 「TA実習」成績評価について 4. TA関連科目の2020年度以降の担当教員検討 5. TA関連科目の2020年度以降の授業について 6. 2020年度4月のオリエンテーション「衣料管理士資格に関するガイダンス」について
2020年2月6日	1. 「TA実習」成績評価について 2. 2020年度シラバスについて 3. 2020年度授業「TA実習」日程について 4. 自己点検・評価について

開催年月日	学生指導等の記録
2019年4月6日	ファッションクリエイション学科1・2年生対象 資格取得のためのガイダンス
2019年4月8日	日本衣料管理協会「TA交流プロジェクト」による説明
2019年4月9日	ファッションクリエイション学科3年生対象 資格取得のためのガイダンス
2019年4月15日	ファッションクリエイション学科4年生対象 資格取得のためのガイダンス
2019年4月15日	2018年度春季（2・3月）TA実習事後報告会（18：00～19：00）
2019年6月10日	3年生対象 日本衣料管理協会「TA交流プロジェクト」による講義
2019年6月17日	実習予定学生の「TA実習先割り振り前の面談」の実施
2019年6月24日	（2回に分けて実施）
2019年12月4日	資格認定証交付等の手続きに関する説明会
2019年12月13日	（同一内容で2回実施）
2019年12月11日	3年生対象 衣料の使用実態調査（日本衣料管理協会より依頼）の説明会
2020年1月20日	衣料の使用実態調査の回収、点検
2020年1月10日	春季（2・3月）実習生（3年生）のための事前教育

■検討組織名： 建築・インテリア系資格専門委員会

報告者：谷口 久美子

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 在学生の資格取得支援対応策の継続【大】 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築【大】 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請【大】 4. 建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請)【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 2018 年度に引き続き、在学生の資格取得支援対応策として、コラボレーション科目 4 講座（「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「マンションリフォームマネジャー資格講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」）、課外授業 1 講座（「インテリアコーディネーター資格試験対策講座 2019」）を実施した。受講者数が安定しているため 2020 年度も継続開講する予定。 二級建築士のアカデミック講座については、ガイダンス・説明会を実施した。 2. 建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況について、在学生についてはオリエンテーション時に、卒業年次生については 3 月卒業時に実施した。調査方法は今年度から Google フォームを導入したが、回答率は下がったため、実施方法については次年度も検討する。また卒業生の建築士資格取得については、2019 年 4 月に発行される紫友会報に情報提供のお願いを同封した。これらの調査結果の活用については、次年度以降の検討課題とする。 3. 次年度への継続課題とする。 4. 建築士試験指定科目の一部に授業内容の変更希望があり、他の科目も含めて指定科目を見直し、更新申請をすることとなった。
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 在学生の資格取得支援対応策の継続【大】 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築【大】 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請(2016 年度入学生対象)【大】

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 6 月 4 日	1. 二級建築士のアカデミック講座実施方法について検討し、教員によるガイダンスをしたうえで一校のみ説明会を実施することとした。 2. 建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請)については、2020 年度以降の授業体制変更(100 分×14 回)への対応も含めてとりまとめ、建築技術教育普及センターに申請する。
2019 年 9 月 17 日	1. 二級建築士アカデミック講座説明会の再開催について検討し、実施することとした。
2019 年 10 月 12 日	1. 建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請)について、シラバス執筆依頼先と依頼文を確認し、担当教員へ執筆を依頼した。2020 年度以降の授業体制変更に伴い、カリキュラム変更のあった 2020 年度入学生用だけでなく、2 年生以上の科目についても変更申請が必要となるため、科目名変更をした 2 科目については変更と前後の 2 通り提出してもらう。
2019 年 12 月 17 日	1. 在学生の資格取得支援対応策について検討し、受講希望者数が安定していることから、コラボレーション科目として開講する 4 講座（「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「マンションリフォームマネジャー資格講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」）については、2020 年度もこれまで同様に実施することとした。また課外授業 1 講座（「インテリアコーディネーター資格試験対策講座 2019」）についても実施の方向で予算申請する。
2020 年 1 月 21 日	1. 一級建築士の受験資格（実務経験）変更に伴い学則変更が必要となるため、手続きについて確認、原案を作成した。 2. 建築士法の改正に伴い建築士の受験資格が変更されることについて、学部 3、4 年生への周知方法について確認した。

■検討組織名：文化・語学研修専門委員会

報告者：加藤 薫

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム（国内）」に関して、学生参加状況をにらみつつ、研修内容の変更を行うかどうかを 2019 年度の大きな検討課題とする。 2. 海外留学 (1) 留学に関しては、学生の意欲を喚起しつつ、適切な指導と審査を行う。 (2) 「誓約書」の書式については 2019 年度も見直しを行ったが、さらに見直すべきところがないか検討する。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム（国内）」に関しては 2019 年度も参加者がいなかった。そのことを踏まえ、2021 年度に向け大幅なプログラム内容の変更を検討することとした。 2. 海外留学 (1) 学生の意欲を喚起しつつ、適切な指導、審査を行えるよう努めることができた。 (2) 「誓約書」の書式については 2019 年度も見直しを行ったが、見直すべきところは見つからずそのまま使用することとなった。 【大】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム（国内）」に関して、2021 年度に向けて授業内容の大幅な刷新を行う。 2. 海外留学 (1) 引き続き、留学に関し学生の意欲を喚起しつつも適切な指導と審査を行う。 (2) 「誓約書」の書式については、さらに見直すべきところがないか改めて検討する。 【大】

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 5 月 22 日	留学規程を用いた学生の留学辞退の申し出(健康上の理由による)について審議し、本学留学規定第 10 条 (2) 項に該当する内容であると判断できることから、留学辞退の申し出を認め、就学許可を取り消すことが承認された。
2019 年 7 月 2 日	留学規程を使用したアメリカへの留学(留学期間：2019 年 9 月 23 日～2020 年 3 月)に関して審議を行い、承認した。 (2019 年 7 月 16 日教授会承認)

本年度の課題 (2019年度)	1. 新指針への対応を引き続き行う。 2. 2019年度の履修者に対する各学生の状況に応じた実習方法を選定する。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 新指針への対応を引き続き行う。 2020年度履修要項(在校生対象)において、科目の変更を行う。2020年度カリキュラム変更に伴い、本課程が「日本語教員養成課程必修科目(言語・教育にかかわる科目)」として設定した服装学部・造形学部の総合教養科目の一部科目が削除されることとなったため、当該科目として認める科目を新指針に沿った形で追加した。 2. 2019年度の「日本語教育実習」履修者に対する各学生の状況に応じた実習方法を選定する。 2019年度の履修者(4年生)は、6人中4人が国際ファッション文化学科であり、1年を通じて卒業イベントの準備に携わる学生が過半数であるということで、学校の立地、実習期間、課題の内容等が彼らに大きな負担にならない実習方式、実習校選定が求められた。新規実習校を検討した結果、候補となった日本語学校に交渉の結果、6人全員が受け入れられることとなった。 10月21日～28日の5日間、日本語教育実習として、初級・中級授業の見学、学内クラブへの参加、日本文化紹介授業の企画と実施を行った。卒業イベント準備中の忙しい時期であったが、国際ファッション研究室のご理解を得て、学生たちは十分な時間を実習に充てることができた。また、学生によっては近接した立地条件を生かして準備活動と両立した日もあった。学生たちは、学習者たちと交流し、また学習者と教員の日常のやりとりを見聞するなど、日本語学校の日常を体験することで、日本語を教える教員としての心構えや日々の学生との対応のありかた、また、学校としての教育に対する真摯な姿勢を広範な角度から吸収し、日本語教育の現場を体験したと思われる。実習後提出された実習記録や発表会などからも、学びのインパクトの大きさや質の高さが認められた。優れた実践を行う実習校へお願いすることが満足度の高い実習に結び付いた。 2019年度の実習生の中には造形学部のデザイン・造形学科の学生が一人いた。他学部履修で本課程の実習まで行った初めての学生となり、他学部でも課程の履修が可能であるということが示された。 【大】
次年度への 課題 (2020年度)	1. 実習先の選定 2019年3月31日「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」(文化庁文化審議会国語分科会)等から日本語教員養成に求められる内容が厳格化の方向にあることがわかる。本課程は2020年度入学生より廃止されるが、2017年度の新指針への対応は必要である。日本語学校側も新しい基準への対応が必要となるため実習受け入れの方向性について再検討しているうえ、さらに、新型コロナウイルス感染症流行拡大による海外渡航の自粛や制限などにより、いっそう実習校の選定が難しくなることが予想される。教壇実習の実施には従来の本学の枠組みでは難しくなることも予想され、さまざまな検討が必要となる。 2. 他学部履修学生への対応 2019年度入学生の履修者の中に、服装学部ファッション社会学科の学生が2人いる。課程科目の時間割等は、課程設置学部である現代文化学部中心に決められるが、他学部生の履修が容易になるような実施可能な対応を考える必要がある。 3. 2017度新指針への対応 2019年度の課程修了生から新指針に対応したカリキュラムで学んだ学年になる。修了証など、必要に応じた変更・対応などを行う。 【大】

■検討組織名：日本語教員養成課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 5 月 10 日	1. 2019 年度教育実習校の決定。実習先と実習期間について各委員への報告。 2. 学生の実習参加可否についての検討、4 年次履修生全員についての参加承認を得る。 （個別に各委員に確認、承認を得る。）
2019 年 10 月 8 日	1. 教授会にて日本語教育実習先と期間の説明を行う。参加学生の公欠について、審議の上、承認を得る。
2019 年 12 月 13 日	1. 2019 年度実習生による日本語教育実習報告会を行う。2020 年度実習生、課程専門委員が参加、質疑応答を行う。
2020 年 1 月 7 日	1. 教授会にて、2020 年度入学生のカリキュラム変更（「日本語教員養成課程に関する専門科目」の削除）について審議の上、承認される。
2020 年 1 月 16 日	1. 2020 年度 2 年生以上向けの Web 履修要項の内容変更の検討を行う。本課程必修科目の一つである服装学部・造形学部総合教養科目の「英語の世界」が 2020 年度削除科目となるため、代わりに「異文化理解とコミュニケーション」「心理学」を含めることにつき、メールで各委員に確認、承認を得る。
2020 年 3 月 (メール会議)	1. 2019 年度課程修了生の修了認定の確認 2. 他学部修了生に合わせた修了証文言変更の確認。自己点検・評価報告書内容についての検討。

本年度の課題 (2019 年度)	1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討 2. 教職課程取消者数を減少させるための検討 3. 教育実習校成績評価向上にむけた事前教育のあり方等包括的検討 4. 文化学園大学・教職研究会との有機的連携等、充実と具体策の検討 5. 教員採用試験対策講座の継続と充実 6. 教育実習履修希望学生の教育実習辞退への対応 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 学力、教職志望度に学生間の違いがあるため、個別指導の必要性に大きな変化はないが、教員間の情報共有を定期的に行った。入学時から卒業まで継続的に学生の動向を観察し、適宜指導することが必要であるとともに、教職課程履修カルテと教職課程履修ノートを活用した指導が大切である。 2. 教職課程の履修意志の曖昧さ、教職への魅力の減退、進路変更等の理由で学年が上がるにつれて履修者数の減少傾向への対策が引続き必要である。とくに 2 年次進級時点での減少傾向が顕著で、1 年次へのよりの確な個別対応と指導が必要とされる。新入生オリエンテーション教職課程ガイダンス及び前期授業において「教職課程履修の意義・魅力」を重点的に展開した結果、減少傾向に改善がみられたが、2 年次に向けての介護等体験の説明内容、説明時期の改善も必要である。 3. 2013 年度からの追跡調査より、教育実習校における項目評価の「学習指導、資質・能力」については、履修審査対象科目の専門教育科目評価との相関性が認められたことをうけ、教育実習生の実習校からの評価、要望を周知することを目的に、教職必修科目(総合教養科目・外国語科目・専門教育科目・教職に関する専門教育科目)の全担当者に継続して教育実習報告書を配付した。また、事前教育については、外部講師と実習校との綿密な連携により充実を図った。 4. 文化学園大学・教職研究会は 2019 年度で 7 回目の開催となった。2018 年度に引続き本学卒業生の美術教諭、家庭教諭に教職課程履修学生が参加しての合同グループ討議を実施した。文化学園大学・教職研究会の参加教諭(家庭)が、「教育実習集中事前教育」の外部講師として教科指導、学校運営・生徒指導についての講義を担当した。また、参加学生の「教職実践演習」における報告があった。研究会としての内容も含め、教職実践の観点からもさらに交流の機会を増やしたい。 5. 2016 年度から引き続き教員採用試験受験学生への支援として実施した。受講学生は教員志望の学生のみだが教員採用試験受験者増加に繋がっている。2019 年度からは教員採用試験出願を教育実習履修条件としたこともあり、教員採用試験対策講座受講者の増加を図りたい。 6. 3 年次 5 月の「教育実習履修審査」以降の指導の徹底が必要である。教職に就く意思確認の重要性からも教員採用試験出願を履修条件とした。 【大】
次年度への 課題 (2020 年度)	1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討 2. 教職課程取消者数を減少させるための検討 3. 教育実習校成績評価向上にむけた事前教育のあり方等包括的検討 4. 文化学園大学・教職研究会との有機的連携等、充実と具体策の検討 5. 教員採用試験対策講座の継続と充実 6. 教育実習履修希望学生の教育実習辞退への対応 【大】

■検討組織名：教職課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月1日	1. 2018年度教育実習報告書について 2. 2018年度自己点検・評価報告書について 3. 教職課程ガイダンスについて 4. 2019年度介護等体験事前教育について 5. 2019年度教育実習辞退学生について 6. 教員採用試験出願について 7. 教員採用試験対策講座について
2019年5月7日	1. 2020年度教育実習履修審査 2. 2019年度介護等体験について 3. 2019年度教育実習について 4. 川崎市教育委員会による採用試験学内説明会について 5. 教員採用試験対策講座について
2019年12月3日	1. 2019年度「教育実習」単位認定審査 2. 2020年度教育実習集中事前教育日程 3. 2019年度介護等体験中間報告 4. 2019年度自己点検・評価報告について
2020年3月3日	1. 2019年度教育実習報告書について 2. 2020年度教育実習関連報告 3. 2019年度自己点検・評価報告案について 4. 2019年度介護等体験報告 5. 2020年度介護等体験申込みについて 6. 2020年度教職課程ガイダンスについて 7. 教員採用試験対策講座について 8. 2020年度教職課程専門委員会役員改選について

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

報告者：田中 直人

提出日：2020 年 3 月 31 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 学芸員課程に進む学生の漸減傾向への対応策として、2018 年度に課程科目の履修方法の見直し（課程履修単位の卒業単位化）を行った。この変更を含む学芸員課程の履修の枠組みを学生に正しく周知し、適切に選択をしてもらう。 2. 「博物館実習」をより効果的なものとするべく、継続的に検討を行う。【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 当課程の履修者は緩やかな減少傾向にあり、ここ数年は2年次履修者が 50 人程、うち4年次まで継続する者は 20 人程であり、10 年前に比べるとほぼ半減している。就職状況が好転し、学生の資格取得への関心が薄れたことを含め理由は様々あると思われるが、学生が履修を躊躇する原因に課程の枠組みに発する問題があるのであれば、これを適正なものとするべく検討する必要がある。その理由のひとつと推定し改編を進めてきたのが、課程履修単位の卒業単位化である。2012 年度の博物館法改正により、資格の取得に必要な科目の数が増加した。このことが学生の負担感を増したことは間違いない。そこで 2018 年度には教務委員会に提案を行ない、課程科目の取得単位を卒業単位として認めることを了承された。昨春の課程ガイダンスでは、この点をとくに丁寧に説明を行った。この取組の成果の検証はすぐにはできないものではないが、資格取得に関心をもつ学生の履修に対するハードルが低減したものと考えている。 2. 4 年次配当科目である「博物館実習」は、毎週の授業実習と、博物館にて行なわれる館園実習から成る。授業実習では、2019 年度より博物館、美術館資料について専門知識をもつ学内教員を招きオムニバス形式で進めた。館園実習では、学生が個別に博物館を訪れて受講するものと、全員が集まって行うものがあるが、今年度はとくに後者を充実させるべく、検討を行った。とりわけ、学芸員の指導のもと企画展覧のイメージを作り上げるグループワークでは、必要な資料を集め、学生同士で議論をし、展示構成を考えさせることができた。授業実習、館園実習とも、新たな取組を増やし履修学生の反応を見ているところであるが、館園実習では実践的な学びとなったとの感想も聞かれ、より効果的な内容になりつつあると評価している。【大】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 学芸員課程への入口である 2 年生向けガイダンス（4 月オリエンテーション期間）において、学芸員課程の内容を履修学生に適切に伝えることが引き続き求められる。 2. 学芸員資格を取得することの意義、博物館で働くことの魅力を、2 年生向けガイダンスは勿論、以降の各授業においても、履修学生に適切に伝えることが引き続き求められる。 3. 文科省の学芸員課程のガイドラインにて「学芸員課程の総まとめの場」として位置づけられる「博物館実習」について、高い専門性をもつ教員、豊富な実務経験を有する学芸員の指導の下、実践的内容となるよう検討することが引き続き求められる。【大】

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 4 月	2 年生向けガイダンス（オリエンテーション期間中に 2 回）
2019 年 6 月	服飾博物館 館園実習打ち合わせ（服飾博物館学芸員） 1. 館園実習生の受け入れ方法に関して (1) 学生とのスケジュール調整のあり方 (2) 実習内容 (3) 服飾博物館アシスタントの関わり方
2019 年 7 月	服飾博物館 館園実習打ち合わせ（服飾博物館学芸員） 1. 集中実習の進め方に関して (1) 実習内容 (2) 学生の評価のあり方
2020 年 1 月 21 日	1. 2020 年度の非常勤講師の体制について報告 5 人の講師のうち 1 人が 2019 年度末をもって退任。これに代わる 1 人の後任（「博物館教育論」）が決定。授業日程についても講師それぞれと調整を行い、すべて決定。 「生涯学習概論」（2 年次）夏季集中 「博物館教育論」（2 年次）冬季集中 「博物館経営論」（3 年次）前期火曜 5 限 「博物館資料保存論」（3 年次）冬季集中 「博物館情報・メディア論」「博物館展示論」（4 年次）後期火曜 4・5 限
2020 年 2 月 5 日	1. 非常勤講師への連絡事項 2 件を確認 (1) ドメインユーザー名・電子メールアドレス の新規配付 (2) 成績評価入力依頼の依頼 2. 2020 年度版履修要項の内容について確認
2020 年 3 月 11 日	「博物館実習」についての振り返りと 2020 年度の実施に関する打ち合せ 1. 振り返り (1) 日誌内容の見直し、変更点についての意見交換 (2) 実習時間の見直し (3) 持ち物、伝達事項の見直し (4) 学生記入欄の説明表記に関する検討 (5) 博物館側から、2019 年度の実習内容の報告 2. 2020 年度の打ち合わせ (1) 授業実習の日程調整 (2) 授業実習にて行なう館園実習ガイダンスの日程調整 (3) 夏季集中実習の日程調整 (4) 館園実習における「必修コマ」数の見直し

本年度の課題 (2019 年度)	1. 新カリキュラムの授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】
取組の結果と 点検・評価	1. 新カリキュラムの授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 (1) 2019 年度は新カリキュラム移行 8 年目で、引き続き授業内容の魅力向上に取り組んだ。 「児童サービス論」では現職図書館員（前年までの都立図書館から市立図書館に変更）による実演を継続して行った他、「図書館概論」でも受講生による『私の読書体験記』を作成し配付した。また、一部科目ではミニツツペーパーの提出を求め、授業理解度の把握や疑問点のフィードバック等に努めて満足度の向上につなげた。 (2) 司書課程履修者 司書課程履修者が履修しやすくするため、4 年生の選択科目 4 科目中の土曜日に開講の 2 科目を 2016 年度から金曜日に変更し、残り 2 科目を集中講義で開講している。受講生の希望は集中講義に集まり、2019 年度も金曜日の授業は成立しなかった。 2019 年度初めの司書課程の履修登録者は、計 54 人で、2018 年度に比べ 9 人増えた。 (3) 2019 年度卒業生の司書資格取得状況 司書資格を取得した卒業生は計 4 人だった。 (4) 司書課程受講生のアンケート調査の実施 1 年生向け科目「図書館概論」受講生に司書課程を受講する動機等の把握のため調査を行った。この科目を受講する目的の主な回答は以下の通りである。 ① 図書館司書の仕事を知りたい、効率的に図書館を利用できるようになりたい ② 資格を取得したい、図書館で働きたい ③ 電子化により図書館利用が減っている状況を何とかしたい 司書課程を履修する目的は図書館司書の仕事内容の理解を深め、司書資格を取得し、実現するならば、図書館司書として働きたい、というものである。図書館でアルバイトやボランティア経験をしている学生がいることもわかり、積極性が把握できた。 調査で把握した受講生の意向を反映できるよう取り組む。 (5) 司書課程科目を卒業単位とすること 司書課程科目を卒業単位として扱うことに継続して取り組み、現代文化学部自由選択科目の枠組みが 2020 年度新入生から設けられることが決まり、その枠内で認められることとなった。これにより 3 学部の学生が公平に扱われることになり、学習意欲の向上につながると考える。 2. 就職希望者への支援 履修者向けに司書採用情報やアルバイト情報を提供し、2 人が都立図書館でアルバイトを体験した。2019 年度から新たに図書館で 3 年生の司書課程受講生からスチューデント・アシスタント（以下、SA）（夜間アルバイトを担当）を募集し、4 人が採用された。引き続き取り組む。 【大】
次年度への課題 (2020 年度)	1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】

■検討組織名：司書課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月4日	1. 司書課程ガイダンスの内容・方法・配布資料の確認について
2019年4月6日～7日	司書課程ガイダンス
2019年6月15日	1. 司書課程授業の登録・開講状況（前期）について 2. 2019年度司書課程の教員体制と研究室体制について 3. 2020年度以降の司書課程教員体制について 4. 2019年度司書課程履修者について 5. 現代文化学部での司書課程科目の卒業単位（自由選択科目）の扱いについて 6. 『入学案内』2020年度版での服装学部・造形学部の司書課程の受講可能表示について
2019年8月1日	1. 現代文化学部での司書課程科目の卒業単位（自由選択科目）の扱いについて 2. 夏休み中の集中講義の実施について
2019年10月30日	1. 司書課程授業の開講状況（前期・後期）について 2. 2020年度時間割（案）について 3. 「児童サービス論」の講師について 4. 2020年度のA館11階PC実習室の利用について
2019年12月6日	1. 2020年度時間割（案）について 2. 2020年度のA館11階PC実習室の利用について
2020年1月31日	1. 2020年度時間割（案）について 2. 「図書館概論」受講生のアンケート結果について
2020年3月6日	1. 2020年度時間割（案）について 2. 2019年度卒業生の司書資格取得状況について 3. 2019年度司書課程専門委員会の自己点検・評価報告について 4. 2020年度司書課程ガイダンスの内容・方法・配布資料について（5月7日、8日実施）

■検討組織名：国際交流委員会

報告者：永富 彰子

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。 3. 文化・語学研修委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. フランスの国立高等装飾芸術学校（以下 ENSAD）と浙江理工大学とのダブルディグリーについて 2019 年度も標記の学校よりダブルディグリーの大学院生（ENSAD、浙江理工大学）を受け入れたが、本学から派遣する学生はいなかった。 2. 2020 年度特別留学プログラムについて 留学希望者について 1 次面接、最終面接の結果、FIT、AUB 希望者計 5 人の留学を許可した。 （前年度：計 4 人） また、留学不許可となった学生には、面談を行って理由を説明し、指導を行った。 今後も参加学生増加に向け、経済的な問題で参加することが困難な学生への支援も併せて検討していく。 3. 「リスクマネジメントマニュアル」の見直しなど共通課題の検討が必要であるが、今年度は連携を検討するまでに至らなかった。引き続き、共通課題について、文化・語学研修委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。 3. 文化・語学研修委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 11 月 26 日	1. 2020 年度特別留学プログラム面接結果について 留学希望者の 1 次面接、最終面接について、面接担当者より報告。委員会として FIT、AUB 希望者計 5 人の留学を許可した。 不許可となった学生には、各学部長と面談を行い通達することとした。 2. その他 （1）留学許可者の今後の対応について 留学許可者に対して心理テスト、レポート課題の提出、個別面談を行うことを確認した。

附 属 機 関 等

本年度の課題 (2019 年度)	1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の活用、設備の整備検討 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討 5. 学内行事、業務への協力 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 利用サービスの向上 (1) 新たな電子ブック「LibrariE & TRC-DL」を導入した。手軽にスマートフォンで読める和書の電子ブックは学生にとって使いやすいと思われる。 (2) 利用者用パソコンの入れ替えに伴い、利用環境が改善された。 (3) 服装学部ファッションクリエイション学科以外の学科の「スタディスキルズ」が無くなったことへの対処として、関連する科目などの中で情報リテラシー教育としてのガイダンスを計 6 回行った。 2. 図書館資源の活用、設備の整備検討 (1) 貴重書デジタルアーカイブのサーバーを更新し、コンテンツを追加した。システムの改修を行い、操作性を向上、画像の拡大・縮小・保存等が容易になり学習効果の向上が見込まれる。 (2) 文化学園リポジトリサーバを 2020 年に JAIRO Cloud に移行するための準備を進めた。 3. 収蔵環境の管理 (1) 電子ブックの導入、データベースの活用を積極的に行い、保存スペースの利用効率を高めるようにした。除籍は小平と新都心の重複分を対象に積極的に進めた。今後も継続して行い成果につなげたい。 (2) 保存環境を改善し、その維持体制を整えるために小平書庫の清掃を行ったが、一部にカビの被害がでた。汚損資料は廃棄し、今後の環境に留意して良好な保存を目指したい。 4. 資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討 (1) 2020 年に目録情報システム（CAT2020）に移行する準備として説明会等に参加し担当者同士で情報を共有した。 (2) 日本十進分類法 10 版を部分的に採用し新しい分野に対応した分類を導入したことで、学生の要望にできていけるとと思われる。 (3) デジタルアーカイブに搭載予定の錦絵データを標準データに修正した。 5. 学内行事・業務への協力 (1) 文化祭で「世界衣装紀行」をテーマに展示を開催し好評を博した。 (2) 大学の授業で学生が作成したテンペラ画を 2018 年度に続けて展示した。計 39 点を 5 回にわけて展示し、SNS でも紹介したことで他の学生の興味も引いたようだ。 (3) 中学生職場体験を 3 回受け入れた。職員にも改めて業務を振り返る機会になり良かった。 6. その他 (1) 私立短期大学図書館協議会幹事校を務めた。 【共】
次年度への 課題 (2020 年度)	1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の活用、設備の整備 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代システムの導入 5. 学内行事、業務への協力 【共】

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	図書館委員会
2019年6月14日	1. 2018年度業務報告 2. 2019年度業務計画・資料費予算決定報告 3. 図書館委員会規程の改定について審議（2019年7月16日教授会承認） 4. 意見交換
2019年11月27日	1. 2019年度業務計画進捗状況報告 2. 2020年度業務計画（案）・資料費予算（案） 3. 2020年度図書館カレンダーについての審議（2020年2月4日教授会承認） 4. 意見交換

開催年月日	部会（館員全体会議）
2019年4月1日	1. 2019年度図書館業務計画 2. 組織編成・業務グループ担当発表 3. 各課業務分担発表 4. 各課報告 5. 業務グループ・研修報告
2019年5月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告
2019年6月28日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 図書館委員会報告 4. 中学生の職場体験報告
2019年9月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 全学FD・SD研修参加報告 4. 書庫に関する現状の問題点 5. 中学生の職場体験報告
2019年10月31日	1. 2020年度空調工事について 2. 連絡事項
2019年11月29日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 2020年度業務計画・予算案審議
2020年1月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 各種申請書の廃止 4. 中学生の職場体験報告

開催年月日	運営会議（管理職会議）
2019年4月10、24日	1. 各種研修参加者検討 2. 学生アルバイト（SA）採用 3. 図書館委員会規程の改定 4. 私立短期大学図書館協議会理事会・総会報告
2019年5月15、29日	1. 資料の外部への貸出 2. 図書館委員会日程 3. 中学生の職場体験
2019年6月11、26日	1. 空調設備改修工事計画 2. 入館システム不具合 3. パソコン入替
2019年7月5、24日	1. 学園創立100周年記念
2019年9月5、18日	1. 図書館だより 2. 全学FD・SD研修会分科会で図書館に対して出された意見について
2019年10月9、23日	1. 現状の問題点洗い出し 2. 全学FD・SD研修分科会で図書館に対して出された意見について対応できることの検討
2019年11月13、15、20、21、27日	1. 2020年度予算編成 2. 2019年度予算消化状況 3. 2020年度業務計画案 4. 図書館委員会
2019年12月4、11、18日	1. 2020年度予算編成 2. 2019年度予算消化状況 3. 各種申請書の廃止 4. 消費税率変更による各種料金の改定 5. 有給休暇取得の確認
2020年1月10、22、30日	1. 2019年度予算消化状況 2. 2020年度図書館カレンダー 3. 図書館だよりの企画 4. 小平書庫の換気
2020年2月4、12、27日	1. 2019年度予算消化状況 2. カウンターのシフト編成 3. 新入生ガイダンス
2020年3月4、23日	1. 2019年度予算消化状況 2. 2020年度組織編制・業務分担 3. 新型コロナウイルス感染拡大防止のための開館日変更

■検討組織名：文化学園服飾博物館

報告者：米山 雄二

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 博物館設備のリニューアル工事の一環として、2018 年度の展示室に続き、収蔵庫の空調設備の交換を秋から冬にかけて行う。 2. 常設展示の是非を検討する中で、現在一部公開している館蔵品データベースについて、来館者がより利用し易い形に整備する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 博物館のリニューアル工事は、収蔵庫の外郭循環部分に関する空調設備の交換を実施した。展示準備作業に支障のないように日程調整を行い、2019 年 11 月から 2020 年 3 月の期間をかけて予定通りに完了した。空調の試験運転と温湿度、消費電力などデータの取得作業について施設部と打ち合わせを行い、2020 年度の効率的な運転の在り方を検討することとした。 2. 服飾博物館が所蔵する装飾品や工芸品など展示機会の少ない資料を有効に活用するため、年 4 回の企画展示に加え、常設展示の形式について検討した。現在、展示業務に携わるスタッフ人数の減少、かつ経験年数の浅いスタッフであることから、博物館の展示業務全体を見直した。その結果、展示編成を従来の年 4 回の企画展示から、企画展示 3 件と他機関への貸し出しを含む新企画展示 1 件とし、1 階を常設展示に変更すること、及びスタッフの業務への習熟を高める OJT 教育を進める改善案を立案した。なお、所蔵品データベースの利用性向上については、スタッフの経験が蓄積した上で検討することとした。 【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 博物館設備のリニューアル計画として、新規導入した空調の省エネ運転、展示ケースの修理及び飛散防止ガラスへの交換、北竜湖資料館（分館）の維持管理について関連部署と連携して検討を進める。 2. 新宿文化クイントビル地下 3 階収蔵庫、F 館地下収蔵庫、小平キャンパス内保管室の 3 か所において、収蔵品の重要性に合わせた効率的な収蔵を推進する。 3. 事業の効率性、継続性を確保するため OJT 教育を推進する。 4. 学校教育における博物館展示の利用機会向上を目指し、新しい展示運営方法及び情報発信を実施する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 3 月 11 日 ～5 月 17 日	「ヨーロッパ・モード」展を開催し、18 世紀ロココ時代から 20 世紀末まで約 250 年の女性モードの変遷を展示し、特集として 20 世紀の「日本」を取り上げ、単なる模倣にとどまらず、新たな創造へと飛躍したドレスを紹介した。 会場：文化学園服飾博物館
2019 年 6 月 14 日 ～9 月 10 日	「世界の絨」展を開催し、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカなど約 20 か国の多様な絨を紹介した。 会場：文化学園服飾博物館
2019 年 10 月 7 日 ～11 月 29 日	「能装束と歌舞伎衣裳」展を開催し、日本の伝統芸能として現在も多くの人々に愛されている能と歌舞伎の魅力を衣裳に焦点をあてて紹介した。 会場：文化学園服飾博物館
2019 年 12 月 3 日	博物館運営・専門委員会を開催し、1. 2019 年度 事業計画及び進捗状況、2. 2020 年度 事業計画概要を報告し、今後の博物館運営及び企画について協議した。
2019 年 12 月 20 日 ～2020 年 2 月 14 日	「ひだー機能性とエレガンス」展を展示し、世界各地の民族衣装やヨーロッパのドレスなどの衣服の“ひだ”が作り出す機能性とエレガンスに焦点を当てて紹介した。 会場：文化学園服飾博物館
2020 年 3 月 11 日 ～2020 年 5 月 20 日 (予定)	「ヨーロッパ・モード」展は、18 世紀ロココ時代から 20 世紀末まで約 250 年の女性モードの変遷を展示し、特集として戦後の若者が発信する新たな感覚がモードに大きな影響を及ぼして生み出されたドレスを紹介する展示準備を行った。 会場：文化学園服飾博物館 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止

本年度の課題 (2019 年度)	1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. 各資料室データベースの更新・拡充 5. 各資料室の資料検証及び利用・利用・収集・整理方法の検討 6. 外部倉庫（所沢、小平）移管の資料整理 7. ファッションリソースセンター運営会議の開催 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 各資料室（映像・テキスタイル・コスチューム）共に学内・学外に対しレファレンスを行い見学、利用者に対して利用方法や収集資料の認知を広めた。 映像資料室：教材用映像資料の収集（提供・購入）の公開。 テキスタイル資料室：テキスタイル産地その他企業提供による素材収集・配架、授業用・テキスト掲載用への貸出。テキスタイルデザインソフト 4Dbox 学生向け講習会を開催。 コスチューム資料室：学生制作作品、その他購入、提供を含めた教材用標本を収集・配架し授業その他教育関連に活用。また、外部貸出等の依頼にも対応。 企画室：学生支援企画展示 Studio oeuf を運営し、学内外で開催した。また、素材・デザイナー展などの企画展を開催した。 2. 織物産地との共同事業による現地体験学習・ワークショップ、産地見学ツアー、展示会、企業共賛のデザインコンテスト、衣装提供などを実施した。 3. 外部への有料情報公開対応として「文化学園ファッションリソースクラブ」を運営し一般利用者（会友）・卒業生（正会員）・企業（賛助会員）への会員導入を行った。学内広報誌「ファッションリソースセンターだより」（年 2 回）を発行、学内及び来館者、入学希望者等に配布した。 4. 各資料室共にデータの追加及び調整をした。 5. 映像資料所蔵の廃止された機器による閲覧不可能なメディアのデジタル化推進に着手した。 6. 継続して検討。所沢倉庫分については一部登録番号など明記した。 7. 継続して検討。 【共】
次年度への 課題 (2020 年度)	1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. 各資料室データベースの更新・拡充 5. 各資料室の資料検証及び利用・利用・収集・整理方法の検討 6. 外部倉庫（所沢、小平）移管の資料整理 7. ファッションリソースセンター運営会議の開催 8. 人員補充についての検討 【共】

本年度の課題 (2019 年度)	1. 海外提携校との特別留学プログラムの開発 2. 学内関連部署との連携及び情報の共有 3. 学内におけるグローバル化の推進 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 海外提携校との特別留学プログラムの開発 (1) 2019 年度に特別留学プログラムを利用して英国 AUB へ留学した学生はいたが、米国 FIT へは該当者がなかった。5 月に 2020 年度プログラムの説明会を実施するなど学生への周知に努めた。学生の語学力の向上と経済的な支援については引き続きの課題である。 (2) 新たな留学プログラムの開発には至らなかったが、英国の提携校セントラル・セント・マーティンズ芸術大学(CSM)の講師を本学園に招き、修了証が発行される 3 日間の有料セミナーを初めて実施した。70 人を超える希望者の中から 18 人の学生が参加。うち大学の学生は 4 人であった。海外の著名なファッションスクールで開講されている独自の授業を日本にしながら受講することができ、学生の満足度も非常に高かった。 2. 学内関連部署との連携及び情報の共有 (1) 文化学園各校と本部の教職員 15 人で構成される「グローバル推進委員会」を年 6 回開催し、学園のグローバルや海外交流に関する意見交換を行った。委員からの提案により作成した 4 校の案内冊子『文化チョイス (BUNKA CHOICES)』は、今後、学生募集の現場での活用が期待される。会議で出された意見はニュースレター『文化学園グローバル通信』のなかで紹介し、教職員へ年 8 回メールで配信して情報の共有に努めた。 (2) 提携校である英国ロンドン・カレッジ・オブ・ファッション (LCF) やマンチェスター・メトロポリタン大学 (MMU)、タイのランシット大学等とのコラボレーションでは連絡窓口となり、本大学教員や学生の交流活動を側面から支援した。また、AP 事業のニューヨーク研修では、連絡、通訳、学生引率等のサポートを行い、円滑な海外交流に資することができた。その他、海外からの入学相談や留学生の保護者への連絡、通訳対応等を行った。 (3) パリコレクションの視察のため渡仏する大学と文化服装学院の教員の事前打ち合わせを行い、学校間での情報共有と現地での連携を図った。 3. 学内におけるグローバル化の推進 (1) 国内外のファッション関係者を講師に迎えた「グローバル・ファッションセミナー」を 11 回開催した。毎回 30 人以上、多い時には 100 人を超える学生や教職員の参加があり、学生の海外留学や世界のファッション動向への興味・関心が高まりつつあることが感じられた。2019 年度は英語だけでなく日本語通訳付きのセミナーも数回開催し、学生の英語力向上にも役立った。留学や国際コンテストに欠かせない「ポートフォリオ」に関しては、個別指導を 3 回開催し、海外への挑戦を考えている学生が繰り返し参加するなど好評であった。 (2) 海外からの短期研修は、米国 FIT のほか、タイ、香港、台湾、中国、オーストラリア、英国の提携校や高校から 8 つのグループを受け入れた。本大学の学生との交流も積極的に行われ、今後の入学者へとつながることが期待される。 【共】
次年度への課題 (2020 年度)	1. 海外提携校との交流内容の見直しと交流プログラムの開発を行う 2. 学内で海外講師の授業やセミナーを受ける機会を充実させる 3. 関連各部署と連携し、更なる情報の共有に努める 【共】

■検討組織名：文化学園国際交流センター

開催年月日	会議等の開催記録
2019年4月12日	海外事務所長来日会議（4校合同） 1. 各事務所からの報告 2. 各学校からの報告、連絡 3. 意見交換
2019年5月21日	第1回グローバル推進委員会 意見交換「海外ガイダンスについて2」
2019年6月25日	第2回グローバル推進委員会 意見交換「海外ガイダンスについて3」
2019年7月23日	第3回グローバル推進委員会 意見交換「文化学園チョイス（BUNKA CHOICES）について」
2019年9月26日	第4回グローバル推進委員会 意見交換「文化チョイス（BUNKA CHOICES）を使ってみて」
2019年11月21日	第5回グローバル推進委員会 意見交換、フランス出張報告
2020年2月6日	第6回グローバル推進委員会 文化学園の国際交流に関する意見交換

本年度の課題 (2019 年度)	1. 知的財産の権利化の推進 (1) 特許、実用新案、意匠、商標等に関する教職員の知識と興味を高め、権利化を進める。 (2) 文化学園における知的財産のあり方等を検討し、教員及び職員がより効率的に知財を活用できるよう、相談を受けつける。 2. 知的財産の更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。 3. 著作権侵害行為の防止 著作物の無断使用や模倣等、著作権の侵害にあたる行為を防止するための方策を検討する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 知的財産の権利化の推進 (1) 本年度は新規の特許出願申請はなかった。また、教職員に対する知的財産権の知識を高める取り組みは、発明に関する相談時にて個別に実施した。 (2) 文化学園における知的財産のあり方については、企業における知的財産の専門家と意見交換を行い、これを参考に検討した。また、教職員が行う文化学園の諸活動において以下のサポートを行った。 ・共同研究におけるノウハウ・成果物の扱いと秘密保持契約について ・企業とのコラボレーション授業における著作権の扱いについて 【共】 2. 知的財産の更新及び保護管理 以下の特許について更新可否を検討し、権利更新を行った。 特許第 4198152 号「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」 【大】 3. 著作権侵害行為の防止 (1) 不正競争防止法についての勉強会を行った。 ・アパレル企業における模倣デザインに対する不正競争防止法違反の判例について ・既製服のパターンコピーについて ・周知表示に対する混同惹起について (2) 改正著作権法に対応し、著作物の教育利用における公衆送信補償金の準備を行った。 【共】
次年度への 課題 (2020 年度)	1. 知的財産の活用 (1) 特許、実用新案、意匠、商標等の知的財産権について教職員の意識向上を高め、高等教育機関としての知的活動を推進する。 (2) 文化学園の諸活動において、知的財産の活用についてのサポートを行う。 2. 知的財産の保護管理 既所有及び新規出願する特許、実用新案、意匠、商標の管理について、外部専門家の意見を取り入れて改善強化を図る。 3. 知的財産侵害行為の防止 他者の著作物の無断使用や模倣等、知的財産権の侵害にあたる行為を防止するため、講演会による教職員への研修、そして教職員から学生への教育指導と繋がる周知活動を推進する 【共】

■検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
2019年6月10日	文化学園知財センター運営委員会 1. 2018年度実績報告 (1)権利化活動 (2)権利更新・管理 2. 2019年度業務計画 (1)知的財産の権利化の推進 (2)権利更新・管理 (3)著作権侵害行為の防止 3. 改正著作権法について
2019年6月10日	文化学園知財センター勉強会 ・アパレル企業における模倣デザインに対する不正競争防止法違反の判例について ・周知表示に対する混同惹起について
2019年6月11日	文化学園知財センター小委員会 ・著作物の引用について
2019年6月12日	文化学園知財センター小委員会 ・図書館資料の保存のための媒体変換（複製）について
2019年7月12日	文化学園知財センター勉強会 ・企業及び学校法人における知的財産権の管理と侵害防止の現状と課題について
2019年11月27日	文化学園知財センター勉強会 ・既製品のパターンコピーについて
2019年12月2日	文化学園知財センター小委員会 ・企業とのコラボレーション授業における著作権の扱いについて
2019年12月17日	文化学園知財センター小委員会 ・共同研究における成果物の扱いについて
2020年1月22日	文化学園知財センター小委員会 ・取材掲載紙の複製・回覧等について
2020年3月6日	文化学園知財センター小委員会 ・学園保有意匠の利用許諾について（文化式新原型）

本年度の課題 (2019 年度)	1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討（企業対応グループ） 2. 地域と連携した活動の計画と実践（地域対応グループ） 3. 環境や社会に配慮した教育の実践（社会環境対応グループ） 4. 卒業生対応のネットワーク構築と卒業生対応イベント実施（卒業生対応グループ） 5. AP 事業の計画と実施（AP 対応グループ） 6. 「教育開発プログラム（ED）」の推進と教育活動の広報活発化（ED 対応グループ） 7. 渋谷区との連携協定（S-SAP）の対応グループの設置 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討（企業対応グループ） 社会人基礎力チェックを、服装学部ファッションクリエイション学科・ファッション社会学科、現代文化学部国際ファッション文化学科、短期大学部ファッション学科に加え、現代文化学部国際文化・観光学科でも実施した。国際文化・観光学科では「働きかけ力」で他学科よりも高評価となったが、「課題発見力」「規律性」では評価が低かった。【共】 2. 地域と連携した活動の計画と実践の検討（地域対応グループ） 〈渋谷区〉渋谷区小中学生並びに公募で「小学生ファッションショー体験&中学生バックヤード見学」を実施（小・中学生 46 人参加）した。また、代々木山谷小学校で 10 月 4 日「家庭科教育支援」を再開し、アドバンステクニックコース 4 年生 7 人が参加し指導を行った。〈飯山市〉「学んで発信、ふるさとプロデュース」では自然体験をテーマとし体験をもとに PR 企画を立案し公開プレゼンテーションを実施した。〈ハヶ岳〉原村の観光振興のため、原村の紹介ポスターを製作した。「ハヶ岳エリアの魅力を伝えるポスターコンテスト」で参加学生が最優秀賞と優秀賞（2 人）を受賞した。【共】 3. 環境や地域に配慮した教育の実践と検討（社会環境対応グループ） 環境型社会に対応した学生作品を「SDGs Week エコプロ 2019」（12 月 5-7 日）に出展した。反毛・残布、デニムの耳を活用したリメイク作品が好評だった。【共】 4. 卒業生ネットワーク構築と卒業生対応イベント実施（卒業生対応グループ） SNS を活用して卒業生へ大学情報を発信するネットワークを構築した。卒業生対応イベントは文化祭で同窓会である紫友会と共催で「BUNKA 会」を開催し、好評を博した。【共】 5. AP 事業の計画と実行（AP 対応グループ） 低学年対象の梅春学期プログラム（2 月－3 月）の海外研修 5 企画、国内研修 9 企画に 74 人参加した。高学年対象の国内外長期企業研修には 3 人が参加した。【大】 6. ED の推進と教育活動の広報活発化（ED 対応グループ） USR 推進室事業活動内容の広報活動を促進するため、広報パンフレットの配布とホームページを通じた情報発信を行った。【共】 7. 渋谷区との連携協定（S-SAP）の設置 渋谷区文化プログラム大学連携企画「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」に短期大学部が参画し、ステージでのショーやワークショップを行い好評を得た。生涯学習事業渋谷ハチコウ大学に学園全体で 15 講座（内大学 3 講座）を提供した。【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討（企業対応グループ） 2. 地域と連携した活動の計画と実践（地域対応グループ） 3. 環境や社会に配慮した教育の実践（社会環境対応グループ） 4. 卒業生対応のネットワーク構築と卒業生対応イベント実施（卒業生対応グループ） 5. AP 事業の計画と実施（AP 対応グループ） 6. 渋谷区との連携協定（S-SAP）事業の計画と実施（S-SAP 対応グループ） 【共】

■検討組織名：USR 推進室

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 4 月 22 日	1. 2019 年度 USR 委員会の新体制について 2. 2019 年度事業予算：事前申請提出の際の方法について 3. 2018 年度自己点検・評価報告書について 4. 各グループ報告：(1) 地域対応グループ：＜渋谷区＞6 月開催予定のファッションショーが告知について ＜飯山市＞9 月に行われるコラボレーション科目の参加人数について ＜八ヶ岳＞コラボレーション科目の参加人数について (2) AP 対応グループ：AP プログラムの応募状況について (3) S-SAP 対応グループ：渋谷区が推進する生涯学習事業について
2019 年 7 月 23 日	1. 各グループ報告：(1) 企業対応グループ：社会人基礎力チェックアンケートを実施について (2) 地域対応グループ：＜渋谷区＞ファッションショーのスタッフ体験及びバックヤード見学の実施報告。小中学生合計 46 人参加 ＜飯山市＞7 月 6 日に行われた法政大学との合同授業について (3) 社会環境対応グループ：近畿大学から無償で借用しているコークスの製造機で行う実験について (4) AP 対応グループ：海外プログラムのオリエンテーションについて (5) S-SAP 対応グループ：渋谷区が推進する生涯学習の事業について 2. 文化祭パネル製作について
2019 年 10 月 21 日	1. 各グループ活動報告：(1) 地域対応グループ：＜渋谷区＞代々木山谷小学校で行った「家庭科教育支援」実施について ＜飯山市＞9 月 8 日～11 日に行われたコラボレーション科目について ＜八ヶ岳＞9 月 9 日～11 日に長野県原村にて行われたコラボレーション科目について (2) S-SAP 対応グループ：8 月 24 日に短期大学部の学生が参加した「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」について 2. 文化祭準備状況報告：レイアウト・展示方法、展示内容について
2019 年 12 月 18 日	1. 各グループ活動報告：(1) 企業対応グループ：社会人基礎力チェックシート結果について (2) 社会環境対応グループ：12 月 5 日～7 日東京ビッグサイトで開催された「エコプロ 2019」について (3) S-SAP 対応グループ：渋谷ハチコウ大学講座の報告【大学連携講座】12 月 12 日実施 田中里尚先生 【大学連携特別講座・入学式基調講演】12 月 12 日・14 日実施 佐藤百合子先生と古屋和雄先生 (4) 地域対応グループ：＜八ヶ岳＞コラボレーション科目の様子が 9 月中旬に長野日報に掲載されたことについて 2. 2020 年度事業計画及び経費予算（案）について

共同研究拠点

■検討組織名：文化ファッション研究機構

報告者：米山 雄二

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 共同利用を中心とした研究事業の継続推進 2. 共同研究(公募型)のあり方の検討と実施 3. 本機構の所有する資料(主に図書)の整理及び貸出期間の見直し
取組の結果と 点検・評価	1. 文部科学省の「特色ある共同利用・共同研究拠点」の認定が 2018 年度で終了となったことから、2019 年度は共同利用を中心とした研究事業を継続するために、公募型のあり方などを含めた見直しを、研究企画委員会及び運営委員会にて議論し、以下のようにすることとした。 (1) 共同研究は学園内の教員が主たる研究者となって複数の人数で行う学園内公募型とし、助成金額はこれまでの研究者 1 人あたりの金額から、研究テーマ 1 件当たりの金額に変更、また採択件数は年 3 件以内として、事業を縮小しつつ継続する。 (2) 若手研究者の活動支援については、若手教員の育成という目的において研究機構が取り組むべき事業と位置づけ、若手教員研究奨励金は年 4 件以内としてこれまでと同様に継続支援する。 (3) 服飾文化に関する講演会及び研究会は、学園各組織にて開催されていることから、研究機構が主体として取り組むことではないと判断した。今後、講演会及び研究会は所管する 4 研究所（文化・衣環境学研究所、文化・住環境研究所、和装文化研究所、文化ファッションテキスタイル研究所）及び文化服装学院が所管する服装形態機能研究所のそれぞれの研究活動における必要性に基づいて企画・実施し、研究機構は 5 研究所の企画内容及び時期が重複しないよう調整を図る役割とする。 (4) 共同研究員制度は継続し、外部研究者との交流による服飾研究のイノベーションを図る。 (5) 和装文化研究所が実施している和装文化のアーカイブ化活動は本学園の教育・研究において重要な基盤であると位置づけ、可能な資源内で継続していく。 2. 共同研究及び若手教員研究について、本年度は以下のように実施した。 (1) 2018 年度で研究終了となった「和装文化研究」の成果発表会を 9 月 19 日に開催し、以下 4 件の研究成果が報告された。 発表題目①和装の再生—能装束の補修・復元 ②和装分野の未発掘資料の調査と保存—基礎調査とデジタルデータ化、 および保存環境の改善支援— ③文化資源としての“和装”活用—和装ユニフォーム化に向けた基礎研究— ④和装のグローバル研究拠点形成のための基礎研究 (2) 若手研究者の活動支援は、昨年度公募・採択した文化学園大学 1 件、文化服装学院 3 件の研究に対して、若手教員研究奨励金による支援を行った。また 2020 年度の若手教員研究支援の公募を行い、5 件の応募について 3 月 10 日の研究企画委員会で審議し、5 件を採択の方向とした。 3. 本機構の所有する資料(主に図書)は、研究員に貸し出ししていたものを返却いただき、整理・確認を行った。貸出手続き及び期間を検討後、改めて貸し出しを行うこととした。
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 共同利用を中心とした研究事業の継続推進 2. 学園内の附属研究所を基盤とした総合研究力の向上 3. 本機構の所有する資料(主に図書)の貸出と管理方法の設定

■検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 7 月 10 日	第 1 回 研究企画委員会 和装文化共同研究（2017 年～2018 年）の研究成果報告会及び報告書の作成、共同研究課題について（期間、助成金額）、文化ファッション研究機構の図書の管理、以上 3 件を審議した。
2020 年 1 月 24 日	第 2 回 研究企画委員会 2020 年度若手教員研究奨励金の公募について審議した。
2020 年 1 月 31 日	第 1 回 運営委員会 文化ファッション研究機構の運営委員会規程及び研究企画委員会規程の改定、2019 年度事業報告、2020 年度事業計画、以上 3 件を審議した。
2020 年 3 月 10 日	第 3 回 研究企画委員会 2020 年度若手教員研究奨励金への応募 5 件を審議し、5 件を採択の方向とし、この内 1 件を研究指導することとした。3 月中に採択し、4 月交付とする。

附 属 研 究 所

本年度の課題 (2019 年度)	1. 文化・衣環境学研究所「学内研究プロジェクト助成金」の公募を通して、学内の研究活動の活性化を図る。 2. 研究成果の公表について、服装学部の研究発表会との連携を深め、研究交流の場を拡大する。 3. 老朽化した研究設備の更新計画を着実に推進する。 4. 文部科学省科学研究費助成金への申請を行い、新規設備の購入を図る。 5. 外部からの共同研究・受託研究、見学受け入れ等の手続き・承認の流れを整備する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 2019 年度「学内研究プロジェクト助成金」については、2018 年度から目的、名称、応募要領等を見直し、文化学園大学及び短期大学部に所属する教員が行う衣環境学に関する研究活動を推進することを目的とし、助成上限金額、公表義務、申請者などの条件を変更し、実施した。2019 年度は 4 件の申請があり、審査の上、全 4 件を承認・採択した。また、2020 年度学内研究プロジェクト助成金の公募を 12 月に行い、4 件の申請があり、審査の上、全 4 件を承認・採択した。 2. 2018 年度に採択した 4 件の学内共同研究プロジェクトの研究成果の公表は、服装学部の学内研究発表会と連携することが定着し、また学外の学会での発表を含め、2019 年度は 3 件の発表がなされた。 3. 研究設備については、老朽化した設備の段階的更新として、三次元動作解析用赤外線カメラの更新、サーモグラフィーの修繕を行った。 4. 新規設備購入に向けての科学研究費助成事業への申請について、2019 年度は研究課題の設定が十分でなく、2020 年度の申請を目指すこととした。 5. 外部からの共同研究・受託研究、見学受け入れ等の手続き・承認プロセスの整備については、他大学の例を調査し、本学に適用する際の課題を把握した。 【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 文化・衣環境学研究所 「学内研究プロジェクト助成金」の公募件数の増加策を検討し、学内の研究活動の活性化を図る。 2. 研究成果の公表について、引き続き服装学部の研究発表会との連携を深め、研究発表と交流の場の拡大を図る。 3. 保有する研究設備の更新及び新規設備の購入を計画的に進めるため、科学研究費助成事業、及び共同研究・委託研究等の外部資金の獲得を推進する。 4. 外部からの共同研究・受託研究の手続き・承認プロセスの整備を継続検討し、2021 年度導入を目指す。 【共】

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 4 月 1 日	文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会にて、2019 年度学内研究プロジェクト助成金公募への申請 4 件について、採択された旨を報告した。
2019 年 7 月 16 日	文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会にて、本学における研究活動の推進、例えば科研費等の採択を増やすための事業のひとつとして学内研究プロジェクト助成金があり、活用を願う旨、報告した。
2019 年 11 月 25 日	第 1 回運営会議 新運営委員の選出、承認。 2019 年度の活動方針、及び 2020 年度学内研究プロジェクト助成金に関する公募要領の変更、研究終了後の報告のあり方等について協議、決定。
2019 年 12 月 10 日	文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会にて、2020 年度学内研究プロジェクト助成金公募について報告した。
2020 年 3 月 10 日	第 2 回運営会議 2020 年度学内研究プロジェクト助成金の申請 4 件について審査を行い、4 件を採択。 2020 年度に向けて、公募要領、研究概要及び決算報告書の様式について検討。 新委員選出について協議。

本年度の課題 (2019 年度)	1. 共同研究の推進【共】 2. 参画教員の拡大【共】 3. 若手教員の研究活動の支援【共】 4. 所報「しつらい Vol. 8」の編集・印刷・発行【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 共同研究の推進【共】 2018 年度から公募範囲を全学として、下記の 3 カテゴリーに分けて公募した。 ＜Ⅰ. 共同研究（教材開発を含む）＞：学内外の複数人で行う共同研究（教材の購入のみではなく、教育方法や教育効果の検証などが必要）。 ＜Ⅱ. 共同制作（教材開発を含む）＞：学内外の複数人行う共同制作（作品の制作のみではなく、制作プロセスや教育効果の検証などが必要）。 ＜Ⅲ. 若手による研究・制作＞：40 歳未満の教員（助手含む）が代表者で行う共同研究・制作。 その結果、研究所運営会議において下記の 7 件の研究が採択され、研究が予定通り実施されたことは評価できる。 ①高齢期女性の居場所における収納システムの提案＜Ⅰ＞ ②長野県須坂市における古民家再生プロジェクト＜Ⅰ＞ ③学外活動を通じた造形教育の試み＜Ⅰ＞ ④アニメーション・ワークショップの実施環境と教材の研究＜Ⅰ＞ ⑤大規模マンションにおける共用空間の利用とコミュニティ活動の経年的変化に関する研究＜Ⅰ＞ ⑥AR 技術を使用したファッションデザインのためのツール開発・作品制作＜Ⅱ＞ ⑦地域と共存する小空間の研究 2＜Ⅲ＞ これらの研究については、2019 年度以降の学内研究発表会のほか、学会発表や一般メディアを通じて広く社会に対して公表する予定である。 また本学文化祭において、研究助成を行った共同研究（2017～2018 年度）のパネル展示を行い、学内外への公表に努めた。 2. 参画教員の拡大【共】 上記研究テーマのうち、①②③⑤⑦は学外者も参画して行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたと考える。また、⑥は専門分野の異なる学内複数学部教員による学際的研究であり、共同研究の募集範囲を大学全体とした成果として評価できる。 3. 若手教員の研究活動の支援【共】 上記研究テーマのうち、①⑥⑦は若手教員も参画して行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたと考える。 4. 所報「しつらい Vol. 8」の編集・印刷・発行【共】 2019 年度は所報「しつらい Vol. 8」の編集を行い、無事発行することができた（隔年発行）。特集のテーマを「昭和とジェンダー」とし異分野による 3 人の識者による鼎談形式で掲載した。また色彩学者による「昭和の色彩」の寄稿も載せた。結果、充実した誌面となり、文化・住環境学研究所の活動を広く公表できたと考える。
次年度への課題 (2020 年度)	1. 共同研究の推進【共】 2. 参画教員の拡大【共】 3. 若手教員の研究活動の支援【共】 4. 所報「しつらい Vol. 8」の見直し、及び「Vol. 9」への準備【共】 5. 文化・住環境学研究所主催の講演会・見学会等の新規企画の準備【共】

■検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 7 月 9 日	1. 運営メンバー新任（補充）の検討 2. 2019 年度 共同研究の報告 3. 文化祭のパネル展示 4. Windows7 入れ替えに伴うデスクトップ PC 購入 5. 所報「しつらい Vol. 8」の発行
2019 年 9 月 24 日	1. 運営メンバー新任（補充）の紹介 2. 2019 年度 事業内容 3. 文化祭のパネル展示 4. 所報「しつらい Vol. 8」の発行 5. 2020 年度 共同研究の公募
2019 年 10 月 23 日	1. 2020 年度 共同研究の公募要領の確定 2. 所報「しつらい Vol. 8」の発行 3. 文化祭のパネル展示 4. その他
2020 年 1 月 31 日	1. 所報「しつらい Vol. 8」の発行 2. その他
2020 年 3 月 10 日	1. 2019 年度 共同研究の実施報告 2. 所報「しつらい Vol. 8」の発行 3. 2020 年度の事業計画 4. その他

■検討組織名：文化・ファッションテキスタイル研究所

報告者：宮本 英治

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存資料などのデジタル化を推進する。2018 年度の実績約 300 件以上を目指す。 2. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発点数 30 点以上を目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル産地を活性化するための指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存のために各種資料のデジタル化に日常的に取り組み、約 220 件をデジタル化した。 2. 研究所独自のテキスタイル開発を日常的に実施し、多重織・ドビー織などの斬新なテキスタイルを約 30 点開発した。 3. 「株式会社リューズ纏」と協働して開発したテキスタイルを使用した服が、春夏と秋冬 2 回のプレゼンテーションや展示会で披露され、高評価を得た。 「ムーンバット株式会社」企画スタッフの為に開発手法の講義を実施した。また、協働した「SAJY プロジェクト」でテキスタイル開発指導した多重織服飾雑貨品が高評価を得た。 「マツオインターナショナル株式会社」のテキスタイル開発のため、弊所保有資料の貸出しと開発指導を行い、そのテキスタイルを使用したファッションが高く評価された。 4. 八王子織物産地・福井県丸岡織物産地などの織物業者へのテキスタイル開発や活性化のための研修・見学受入れなどを実施した。 5. 文化学園大学をはじめ文化学園の教員や学生の見学・研修を受入れ、テキスタイルの一般知識の習得や生産現場におけるテキスタイル作りを理解してもらうことが出来た。 「株式会社糸編」の主催する“産地の学校”を弊所で開催し、業界関係者やファッションに興味を持つ塾生に見学・講義を行い、好評を得た。 文化学園・文化連鎖校・業界など来所者件数約 100 件 670 人【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存資料などのデジタル化を推進する。2019 年度の実績約 220 件以上を目指す。 2. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発点数 30 点以上を目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル産地を活性化するための指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2020 年 3 月 11 日	第 1 回文化・ファッションテキスタイル研究所 運営委員会 1. 研究所来所者の件数・人数等について 2. 2019 年度事業報告説明について 3. 2020 年度事業計画について 4. 産学連携事業収入について 5. 研究所所長の移動について

■検討組織名： 和装文化研究所

報告者：近藤 尚子

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・充実する。2019 年度は新カリキュラムでの科目運営となる。【共】 2. 和装関連科目の充実を図る。【大】 3. ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室、研究会などのイベントを継続開催する。【共】 4. 外部との連携強化を図る。【共】 (1) 「次世代きもの和音デザインコンペ」を継続する。 (2) 榊三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。 5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。このため、研究課題の公募を継続する。【共】 6. 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。2018 年度に続きリソースセンターの資料、和装研の資料、テキスタイル研の資料のデータ化を進める【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 大学の科目としては「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」を運営した。また、コラボレーション科目として「きものコーディネート入門 2019」「タイの学生と一緒にファッションを学ぼう 2019」を実施した。【共】 2. 2018 年度入学生から新たに 2 科目の設置と「和裁Ⅱ」の単位の増加を実現することができた。実際の開講は 2020 年度からになる。【大】 3. (1) 7 月 2 日～7 日「ゆかたウィーク」を開催した。関連イベントとして、7 月 17 日にトークセッション KIMONO 超会議 2 を開催した。【共】 (2) 着付教室を 12 月から随時開催した。【共】 4. (1) きものブレインとの連携を今年度は行わなかったが、来年度以降の継続を確認している。【共】 (2) 榊三松と連携したイベントを行った。【共】 5. 和装文化研究公募課題の研究機関が終了し、採択された 3 つの課題の成果発表を行った。【共】 6. 学内のリソースのアーカイブ化を図った。リソースセンター所蔵の装苑の実物資料調査は終了し、報告書を作成した。新たに、ピエール・カルダン関連資料の調査、短期大学部研究室所蔵資料の調査・研究を行った。【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・実施する。【共】 2. 和装関連科目の充実を図る。新カリキュラムでの運用開始年度を迎えるので、検証しつつ進めたい。【大】 3. ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室、研究会などのイベントを継続開催する。2018 年度に中心的役割を果たしていた学生が卒業してしまうため、学生をいかに巻き込むかが課題である。【共】 4. 外部との連携強化を図る。【共】 (1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。 (2) 榊三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。 5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。このため、研究課題の公募を継続する。【共】 6. 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。2019 年度に続きリソースセンターの資料、短期大学部研究室の資料、和装研の資料、テキスタイル研の資料のデータ化を進める。これらのプロジェクトを推進しやすくするため組織を明確化する。【共】

事 務 局

■検討組織名：全学 SD 委員会

報告者：清木 孝悦

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 今後の 18 歳人口の減少の中で、入学者確保と質の向上の方策について検討していく。 2. 休学者・退学者を減らすための方策について、まず、経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討していく。 3. 学外の研修会などに参加し、他大学の状況などの情報を収集し、学生の支援体制の充実を図る。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 18 歳人口の減少の中での入学者確保と質の向上と、休学者・退学者を減らすための方策について、2018 年 11 月に中央教育審議会より出された「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」と「文化学園大学・文化学園大学短期大学部 中途退学者数」「在籍者数（各年 5 月 1 日現在）・入学定員充足率・収容定員充足率」をもとに、どのように取り組んでいくべきかをグループで議論を行い、意見を発表した。 2. 2016 年度～2018 年度退学者のうち、経済的理由が進路変更の次に多く、2020 年度から始まる高等教育修学支援新制度を利用することにより退学者が減少することが予想されるため、引き続き状況を把握しながら対策を検討する。 3. 日本私立大学協会等の研修会に職員を派遣しており、他大学等の状況や情報を得ることにより学生支援体制の充実を図るため、新たな取り組みの材料としている。今後も他大学の状況などを参考に充実を図る。 【共】
次年度への 課題 (2020 年度)	1. 休学者・退学者を減らすための方策について、経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討する。 2. 学外の研修会などに参加し、他大学の状況などの情報を収集し、学生の支援体制の充実を図る。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 4 月 2 日	全学 FD・SD 研修会の実施（全教職員対象） 外部講師による講演会と、教員・事務職員混成のグループによる分科会を実施
2019 年 9 月 4 日	全学 FD・SD 研修会 秋の分科会の実施（全教職員対象） 教員・事務職員混成のグループによる分科会を実施
2019 年 9 月 13 日	事務局 SD 研修会の実施（全事務局職員・学園就職支援室就職支援一課） 部署混成のグループにおいて、18 歳人口の減少の中での入学者確保と質の向上と、休学者・退学者を減らすための方策について議論し、意見を整理して発表を行った。

学 園 本 部

■検討組織名： 学園本部 総務部

報告者：佐藤 申

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革（継続） 2. 人事・給与制度改革（継続） 3. 学園創立 100 周年に向けた取り組み（継続） 4. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組み【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 (1) 前年度より継続している人事系申請業務の見直しとして、新たなシステムの導入を決定したが、クラウド環境を利用し経費精算や決済・稟議等も行えるシステムを総合的に導入するため、再検討することとなった。 2. 人事・給与制度改革 (1) 働き方改革関連法案対策や教員の評価制度等について検討を行った。引き続き検討していく。 (2) 教員の勤怠管理についてタイムカードを利用するシステムに変更した。 3. 学園創立 100 周年に向けた取り組み (1) （仮称）100 周年記念校舎の建設については計画の中止を決定した。 (2) 広報用 100 周年記念ロゴマークを学生コンペで行い、作成した。 (3) 創立 100 周年記念事業企画委員会を立ち上げた。 4. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組み (1) 新型コロナウイルス感染症の関係でオリンピックが延期となり、検討を保留した。【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革（継続） 2. 人事・給与制度改革（継続） 3. 学園創立 100 周年に向けた取り組み（継続）【共】

■検討組織名：学園運営会議

開催年月日	会議等の開催記録
2019年5月16日	創立100周年に向けての計画の進捗状況について 校舎の耐震・劣化調査について (仮称) 創立100周年記念校舎意見交換会について
2019年6月13日	創立100周年に向けての計画の進捗状況について 創立100周年準備委員会(仮称)設立について 年次有給休暇の時季指定義務について 校舎の耐震・劣化調査について 新都心校舎の状況について設計会社のヒアリング
2019年7月11日	創立100周年記念ロゴマークの募集について
2019年9月12日	創立100周年記念事業について 臨時雇用規程の改定について
2019年10月10日	創立100周年記念事業について 改正労働関連法の対応について 創立100周年記念ロゴマーク制定について E館、I館耐震調査スケジュール
2019年11月14日	創立100周年記念事業について 創立100周年記念ロゴマーク制定について
2019年12月12日	創立100周年記念事業企画委員会について
2020年1月16日	E館の耐震について
2020年2月13日	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の対応について

■検討組織名：創立100周年記念事業企画委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2019年12月12日	創立100周年記念事業について

本年度の課題 (2019年度)	1. 各建物の利用計画に基づいた教育環境の改善及び施設の安全対策を行う。 2. 引き続き耐用年数に応じた冷暖房用熱源設備の中長期計画を予算化して実施する。 3. 国際学生会館の統一管理標準に基づき、入寮募集活動の強化に努める。 4. PCB 特別措置法に基づく含有機器の種類に応じて、法定処分期間の厳守計画を推進する。 5. 産業廃棄物の削減及び再資源化の広報活動を推進する。 6. キャンパスの美化整備事業計画を推進する。 7. 高効率機器への更新計画と省エネルギー対策の事業計画を推進する。 8. 老朽化したエレベーターのリニューアル計画を策定して学生生活の安全を確保する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. (1) 老朽化した受変電設備のバッテリー及び保護リレー等の設備機器を中長期計画に盛り込み、今年度分を実施した。 (2) 新都心キャンパスのカメラ監視体制の強化のために、デジタル化によるリプレイス計画を次年度以降の実施に向けて予算化をした。 (3) 管理会社の合同月例定例会議を実施して、建物維持管理に関する法律等に基づく安全衛生対策について計画的に実施した。 2. (1) ABC 館天井埋設空調機の老朽化と部品供給停止に加えて特注生産機器であることから、緊急用予備機器の確保と共に空調機のオーバーホール計画4年目を実施した。 (2) F 館空調機器の老朽化と部品供給停止に伴い、熱源のF 館単独化のための機器更新計画3年目を実施し、4年目以降の工事計画を予算化した。 3. (1) 府中国際学生会館の外壁タイルの全面改修工事を実施し、学生及び通行人の安全を確保した。 (2) 月例寮長会議により、寮の統一管理と募集活動の強化に努めた。 4. (1) 蛍光灯用安定器のPCB 含有機器を分離して合理的な廃棄処分の準備を実施した。 (2) 蛍光灯安定器のPCB 含有コンデンサーの分離により、低濃度含有と高濃度含有に分離した内容で処分登録をし、合理的な予算化を計画した。 5. (1) 什器備品の再利用の推進と、紙ごみ専用箱を追加設置して紙の再資源化の広報活動を推進した。 6. (1) 季節折々の草花年間計画を実施して、キャンパスの美化と近隣との協調を図った。 (2) 新宿文化クイントビルとの連携で、桜並木とLED イルミネーションデザインの統一により、甲州街道のシンボルエリアとして近隣からも好評を得た。 7. (1) 新都心キャンパスの設備機器について高効率化への中長期計画的を立案した。 (2) ABC 館、プラザ棟の蛍光灯について、LED 化による省エネルギー対策を実施した。 8. (1) E 館の耐震補強工事後のエレベーターリニューアル改修工事を計画し、中長期計画を予算化した。 【共】
次年度への 課題 (2020年度)	1. 各建物の利用計画に基づいた教育環境の改善及び施設の安全対策を行う。 2. 引き続き耐用年数に応じた冷暖房用熱源設備の中長期計画を予算化して実施する。 3. 国際学生会館の統一管理標準に基づき、入寮募集活動の強化に努める。 4. PCB 特別措置法に基づく法定処分期間に基づき廃棄処分を実施する。 5. 産業廃棄物の削減及び再資源化の広報活動を推進する。 6. キャンパスの美化整備事業計画を推進する。 7. 高効率機器への更新計画と省エネルギー対策の事業計画を推進する。 8. エレベーターのフルメンテナンス計画が一巡し、将来計画を策定して安全を確保する。 【共】

■検討組織名： 学園本部経理部

報告者：秋元 雅則

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 「文化学園経理規程」の改正を行い、付随する細則も検討を重ねる。 2. 学園各部署の事業計画の進捗を確認しながら「中長期財務計画」の見直しを行う。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 「文化学園経理規程」の改正を行い、必要な細則も検討を重ねる。 「文化学園経理規程」及び関連する細則の改正へ向けて、引き続き検討を行っている。 2. 学園の各部署の事業計画の進捗を確認しながら「中長期財務計画」の見直しを行う。 各部署と協議し、2027 年度までの「資金収支中長期財務計画」、「事業活動別中長期財務計画」を作成した。 【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. 「文化学園経理規程」及び関連する細則の改正へ向けて、引き続き検討を重ねる。 2. 学園の「資金収支中長期財務計画」を基に、財務基盤の充実に図り、教育・経営環境の変化に対応した施設設備への投資や基本財産の入替えを行う。 【共】

■検討組織名：IT 委員会（IT 戦略室）

報告者：淵上 和子

提出日：2020 年 4 月 1 日

本年度の課題 (2019 年度)	1. 新証明書発行機の入替を行う。(2019 年 9 月頃予定) 2. 磁気カードを使用している 3.4 年生の学生証を IC カードにする。 3. 証明書発行機変更に伴い、上位システムからのデータ転送処理を改修する。 4. 引き続き、ICT を利用した授業支援の提案に努める。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. IC 対応型証明書発行機への入替が完了した。 2. 全学年、学生証の IC 化が完了した。磁気データが不要となり磁気飛びによる学生証再作成業務が軽減された。 3. キャンパスプランに蓄積されたデータを、証明書発行機側に転送する際のフォーマットを工夫することにより大幅なコストダウンが実現した。 4. ICT を利用した授業支援の提案や業務改善として、次の 3 点を行った。 (1) G Suite の運用ルールを確立し、非常勤を含む全教職員への G Suite アカウントの配付を行うことで、従来の共有サーバに替わり Google ドライブの利用が広まり利便性が向上した。 (2) パソコン教室の Mac パソコンを全て一新した。教員画面での操作説明にプロジェクタのみで行っていたが、モバイルディスプレイの採用により、中間モニタでも表示できる工夫をした。これにより、A115 教室の教員画面を A116 教室の中間モニタにも映し出すことで 2 教室同時の授業が可能になった。 (3) 他大学との情報交換を行い、本学のシステムの運用について業務削減案を提案した。 【共】
次年度への 課 題 (2020 年度)	1. キャンパスプランサーバの経年劣化によるサーバの入替を計画する。 2. 2023 年度の Windows Server2012 R2 サポート切れに伴い、キャンパスプランの次期バージョンアップについて検討を開始する。 3. 修学支援制度の開始に伴い、システムでの対応方法について検討する。 4. 大学入学共通テストの実施に伴い、システム改修を行う。 5. 現状のシステム利用状況について見直し、ICT を利用した業務軽減や授業支援の提案に努める。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2019 年 4 月 11 日 2019 年 5 月 14 日 2019 年 5 月 17 日	新証明書発行機選定等 打合せ
2019 年 8 月 7 日	キャンパスプラン発行機転送処理 打ち合わせ
2019 年 9 月 5 日 2020 年 2 月 4 日	大学 IT 小委員会 次期パソコン教室についての検討と各システムの質問、要望等

附： 委員会委員一覧表
学部・学科・コース編成
入学定員・収容定員・在籍学生数
全学自己点検・評価委員会委員名簿

2019 年度 文化学園大学・文化学園大学短期大学部委員会委員一覧表

2019 年 6 月 1 日

[常置委員会]

◎委員長 ○副委員長 △書記 (敬称略・順不同)

		教 務	学生支援	入試対策	就 職
1	服装造形学、生産工学、和裁	平良木 啓子	△大橋 寛子	寺嶋 朋子	田端 智香
2	短大部ファッション学科	△木全 秀美	小出 恵	野沢さおり	佐藤 綾
3	服装デザイン学、服飾工芸 ファッション画、テキスタイル、 機能デザイン学、服飾文化共同	柚本 玲	松井 有子	小林 未佳	○中西 教夫
4	服装社会学、服装史学 服飾文化共同、和装文化研究所	○田中 里尚	工藤 雅人	○福田 博美	小林 幹彦
5	染織、金工、グラフィック・プロダクト デザイン・映像、絵画、基礎造形 造形・色彩学	◎北浦 肇	山田 拓矢	春田 幸彦	岡部 隆信
6	建築デザイン、 インテリアデザイン	岩塚 恵	横山 稔	浅沼 由紀	谷口 久美子
7	語学、教育学・体育学、調理学、 和装文化研究所、(博物館学)	岡島 奈音	小山 真理	森谷 直樹	梶谷 哲也
8	国際文化・観光 A 国際文化・観光 B	小川 祐一	◎白井 菜穂子	△星 圭子	加藤 薫
9	国際ファッション、応用健康心理学	清水 美里	○根本 賀奈子	樋掛 英里	柴田 早苗
10	教務部、学生部、就職支援一課	高野 博子	宮本 朱	酒井 城司	△吉田 和代
学長 指名			八浪 美穂 酒井 城司	◎高橋 正樹 清木 孝悦 相澤 浩子	矢中 睦美 ◎丸茂みゆき

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全学 F D	研 究	研究倫理	研究公正	研究活動不正防止	公開講座実行
◎渡邊 秀俊 ○瀬島健二郎 △押山 元子 伊藤由美子 近藤 尚子 申 恩泳 磯崎 明美 沼尻 七子 北浦 肇 杉田秀二郎 梶田 貴子 下山かおり 清木 孝悦 円谷 葉子 高野 博子 二茅みゆき	◎金川 孝義 ○スワット チャロニボソナーニッチ △村上 剛規 吉田 昭子 久木 章江 井上 昌恵 遠藤 典子 北岡 竜行 清木 孝悦 円谷 葉子 酒井 城司 吉田 和代	◎高村 是州 ○中沢 志保 ○安永 明智 △井口 彰子 △後藤 望 △三品 和之 砂長谷由香 岡林 誠士 嘉松 聡 曾根 里子 古屋 則子 二茅みゆき 藤澤 千晶	◎米山 雄二 ○中沢 志保 △藤澤 千晶 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 永井 伸夫 本間 博 佐藤真理子 清木 孝悦 円谷 葉子	◎米山 雄二 清木 孝悦 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 中沢 志保 浅沼 由紀 近藤 尚子 永井 伸夫 原島 陽一 田村 照子 円谷 葉子 藤澤 千晶	◎米山 雄二 ○高橋 正樹 △藤澤 千晶 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 中沢 志保 近藤 尚子 清木 孝悦 小林 哲夫 秋元 雅則 佐藤 申 友利 光夫 円谷 葉子	◎安高 信一 ○佐藤真理子 熊谷 伸子 関口 光子 岡本 泰子 梶田 貴子 中島 敬子 二茅みゆき 藤澤 千晶 吉村 紅花

ハラスメント防止	障害学生支援
◎石田名都子 ○三島 万里 △千葉 悦子 三國 純子 安高 信一 鹿島 和枝 円谷 葉子 酒井 城司 吉田 和代	【相談員】 平良木啓子 北浦 肇 七里 真代 星 圭子 柴田 早苗 小出 恵 宮本 朱
	◎佐藤 浩信 ○本間 博 古屋 和雄 平野 律子 星 圭子 酒井 城司 円谷 葉子

[学部専門委員会]

衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修	日本語教員養成課程
◎矢中 睦美 ○由利 素子 △角田 薫 小林 未佳 松井 有子	◎谷口久美子 ○浅沼 由紀 △曾根 里子 渡邊 秀俊 横山 稔	◎加藤 薫 ○佐藤 浩信 △米田 紀子 久保田 文 ジヨシ・デビッド・オエシ	◎星 圭子 ○加藤 薫 △畠山 理恵 白井菜穂子

[課程専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程
◎福井 路可 ○森谷 直樹 △五十嵐清子 北浦 肇 鳥海 薫 栗山 丈弘 中島 敬子	◎田中 直人 △岡島 奈音	◎瀬島健二郎 △吉田 昭子

図書館	国際交流	I T委員会大学小
◎申 恩泳 ○佐藤 真理子 三島 万里 鹿島 和枝 嘉松 聡 加藤淳之介 二茅みゆき	◎永富 彰子 ○石田名都子 △高野 博子 渡邊 秀俊 三國 純子 古屋 則子 佐藤 浩信 樋掛 英里 清木 孝悦 古屋 和雄 円谷 葉子	◎スワット チャロンニボ ソワーニッチ ○渡邊 秀俊 △野沢さおり 柳田 佳子 白井 信 村上 剛規 岡林 誠士 高野 博子 山川あづさ

学部・学科・コース編成 (2019 年度)

文化学園大学大学院

生活環境学 研究科	被服環境学専攻 (博士後期課程)	
	被服学専攻 (博士前期課程)	アドバンストファッションデザイン専修 ファッションビジネス専修 テキスタイルデザイン学専修 ファッション文化専修 服装機能学専修 グローバルファッション専修 服装社会学専修
	生活環境学専攻 (修士課程)	生活造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化 研究科	国際文化専攻 (修士課程)	国際文化専修 健康心理学専修 国際ファッション文化専修

文化学園大学

服 装 学 部	ファッションクリエイション学科	クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンストテクニクコース インダストリアルテクニクコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース
	ファッション社会学科	服装社会学コース ファッションビジネスコース 服飾文化史コース グローバルファッションマネジメントコース
造 形 学 部	デザイン・造形学科	メディア映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース ジュエリー・メタルデザインコース
	建築・インテリア学科	インテリアデザインコース 建築デザインコース
現代文化学部	国際文化・観光学科	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース
	応用健康心理学科	

文化学園大学短期大学部

ファッション学科	
専 攻 科	ファッション専攻

入学定員・収容定員・在籍学生数 （2019 年 5 月 1 日現在）

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学（博士後期）	2	6	8
	被服学（博士前期）	20	40	40
	生活環境学（修士）	6	12	20
国際文化	国際文化（修士）	6	12	4

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服 装	ファッションクリエイション	300	1360	1124
	ファッション社会	140	580	553
造 形	デザイン・造形	120	500	449
	建築・インテリア	120	480	425
現代文化	国際文化・観光	50	140	209
	国際ファッション文化	120	460	547
	応用健康心理	0	90	30

文化学園大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
ファッション	—	80	160	97
専攻科	ファッション	20	20	0

全学自己点検・評価委員会 委員名簿 (2019 年度)

委 員 長	渡邊 秀俊
副委員長	瀬島健二郎
書 記	押山 元子
	伊藤由美子
	近藤 尚子
	申 恩泳
	磯崎 明美
	沼尻 七子
	北浦 肇
	杉田秀二郎
	梶田 貴子
	下山かおり
	清木 孝悦
	円谷 葉子
	高野 博子
	二茅みゆき

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部
自己点検・評価報告書 - 2019年度 -

2020 年 10 月 1 日発行

編集：文化学園大学 文化学園大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会